

北海道大学 大学院文学院

2025

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

2025年度 北海道大学 大学院文学院



北海道大学
大学院文学院

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University

www.let.hokudai.ac.jp

 HOKKAIDO
UNIVERSITY

文学院院长挨拶

「文学院」への誘い

こんにちは、文学研究院の教員で川端と申します。2024年4月から2026年3月まで文学院院长を務めます。私は1961年に札幌で生まれ、札幌で育ちました。1980年に北大に入学しましたので、もうずいぶん長くここにおります。クラーク博士の有名な言葉「Be ambitious!」は一般に「若者よ、大志を抱け」と訳されていますが、皆さんの先輩、後のアラビア石油の創始者である山下太郎は、このambitiousという言葉にはより「野心的」な意味合いが込められているとして、「若者よ、山師たれ」と説いています。

これまで北海道の地で、東西冷戦、高度成長、バブルとその崩壊、デフレと停滞、地政学リスク等をみてきましたが、大きくなりそうな時代のうねりの中で、現在の本研究院は全世界的にみても有望な山師的集団である、と私は思っています。ウェブサイトをみていただければわかりますが、多様で魅力のある文系や文理融合系コンテンツのほぼすべてが揃っています（とくに日本最北に位置する拠点大学の役割を考慮しています）。これだと思ふ領域を選んで深くかつ学際的に学ぶことができる環境がありますし、野心的で親かな学部生約620名、修士課程学生約230名、博士課程学生約180名、文学院教員約130名と事務職員約20名が日夜仕事を全うしています。北大は札幌の中心に原生林や農地を含めて広大な敷地を占めており（文学部はその真ん中に位置します）、さながら北海道全域の箱庭のようなイメージです。この箱庭での演習から始まって、北海道、北方圏、世界（real and cyber）をフィールドとして私たちは活動しています。

私の文学部と山スキー部の後輩で宗教学・仏教学を専攻した男がおります。建設機械の会社に入社した後に本格的にスペイン語を学んで南米赴任、あの広大な南米大陸で油圧ショベルの保守に奔走してきました。私が1997年にエクアドルのチンボラソ山に赴いた際にはチリから駆けつけてくれ、そのときの風貌はほぼ現地人のそれでした。現在、彼は日本でITを活用して、世界各地の工事現場で作動する機械の保守システムをコントロールしています。北大をホームベースに、様々な言語を交わしながら、飄々と世界の山を歩く、山師の一人と言えるでしょう。

北海道や日本は過去数十年間、経済、学生の就職に関しては受難の時代が続きましたが、その中でも時とともに私たちへの社会的要請は増えてきました。今後日本がより知的に経済的に豊かになる光がみえてきた中で、様々な業態の企業、団体、組織などが求める人材を供給する主要な源泉になりつつあります。私はそのような人材が北大文学院から輩出することを目標にしています。おもしろき人生の山師たれ！



北海道大学大学院文学院院长

川端 康弘 かわばた やすひろ

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
特色ある教育プログラム	05-06
支援制度	07-08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」case 1	29-30

人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
修了生が語る「エルムの森の日々」case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----

★ 文学院の 特徴・履修モデル

文学院は、哲学宗教学、歴史学、文化多様性論、表現文化論、言語科学、スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学の7講座からなる「人文学専攻」と、心理学、行動科学、社会学、地域科学の4講座からなる「人間科学専攻」との2専攻から構成されています。
学際的な人文・社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

- 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

- 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみなさんの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。
- 文献資料・史料に向き合うとともに、現場にも足を運ぶことで、地域や社会に役立つ実践的・実用的な研究成果を豊富に生み出しています。
- スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかできない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室
- 博物館学研究室
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室

詳細は [p.09](#)

人間科学専攻

Division of Human Sciences

- 人間と社会に関する総合的な学修ができます。
- 大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。
- 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。
- 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

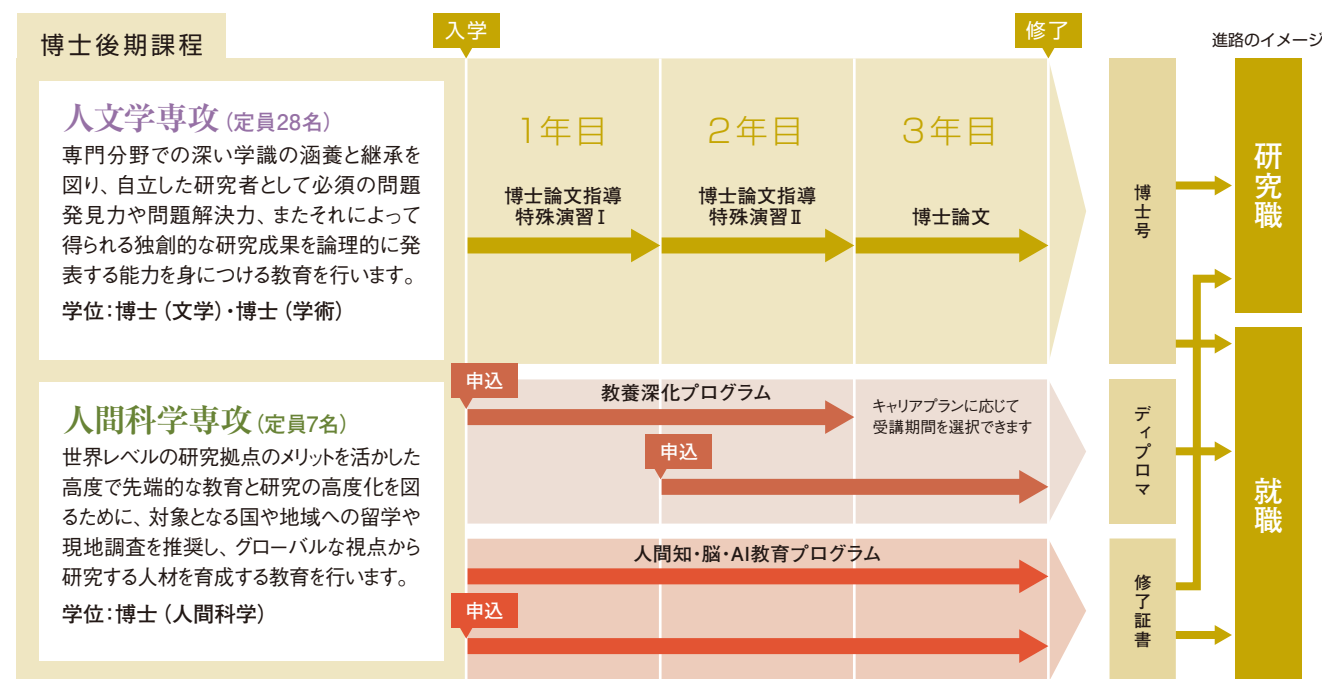
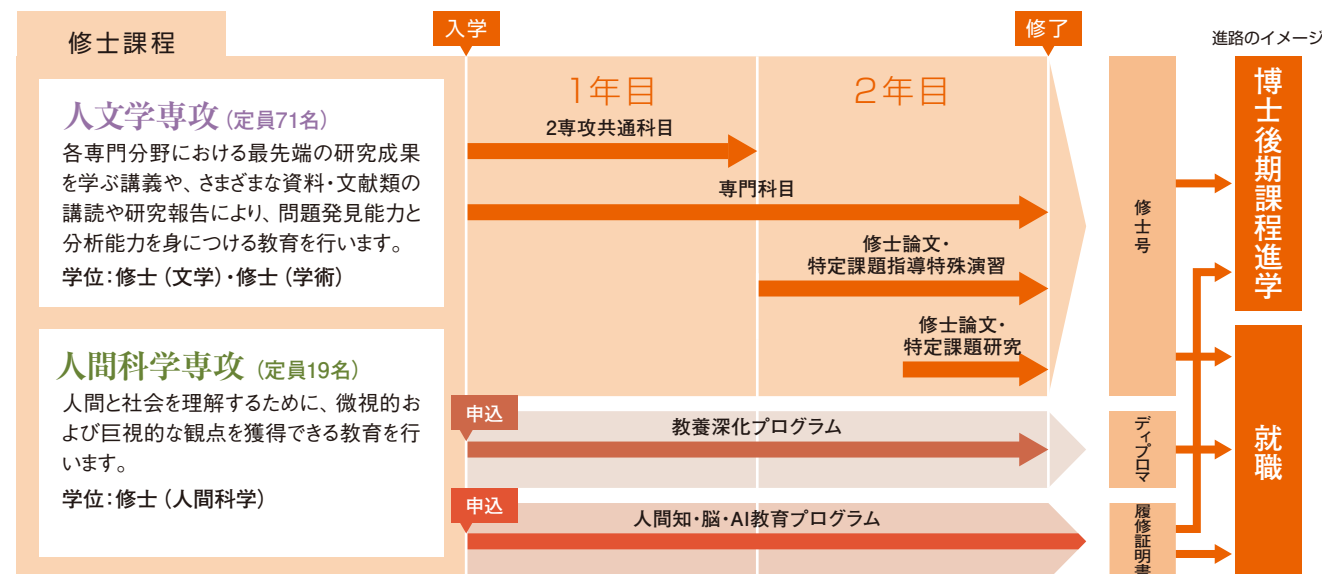
- 地域科学研究室

詳細は [p.31](#)

2専攻共通科目を開講。
俯瞰的な視野で
人文・社会科学を広く学修します。

2専攻共通科目として「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」を開講しています。各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学修することを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

- キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



教養深化プログラム、人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は [p.05-p.06](#)

- 文学院が目指す人材像

人文学専攻

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析的確に行う能力を備えた人材。
- 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

- 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門知識を備えた人材。
- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。

特色ある教育プログラム

教養深化プログラム

高度な専門知識を持った 即戦力人材に成長

教養深化プログラムの受講希望者は、
専門研究を深めていくかわら、
人文・社会科学諸分野の総合的な学修と、
社会で役立つジェネリックスキル^{※1}を学修することにより、
高度な専門知識を有し、社会で即戦力となる人材へと成長していきます。
博士後期課程の学生にとっても幅広いキャリアへの扉が開けます。

※1) ジェネリックスキル
社会人として活躍するための能力のこと。具体的には「知識活用力」、「課題解決力」、「コミュニケーション力」、
「チームワーク・リーダーシップ」等の社会で役立つ汎用的な力を指す言葉として使われています。



プログラムの特徴

人文・社会科学の総合的な学修

研究室単位の専門科目の学修とともに、人文・社会科学の諸分野を横断する学修プログラムを発展的に学びます。

文理融合と学際的な学修

数理的思考やデータの分析・活用方法を学ぶとともに、自然科学の最先端の知に触れ、自らの専門知識をベースに自然科学への理解を深めます。

社会と繋がる実践を重視

先端人材育成センター・CoSTEP^{※2}と連携した実践的なプログラムにより、高度なジェネリックスキルが身につきます。

※2) CoSTEP:北海道大学大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター・科学技術コミュニケーション教育研究部門。科学技術の専門家と市民の橋渡しをする人材を育てる、教育研究組織。

受講の流れ

北海道大学大学院 入学

修士課程 / 博士後期課程

〈受講対象者〉

北海道大学の大学院に在籍する修士課程・博士後期課程の学生

教養深化プログラム申込

原則として希望者全員が参加できます

教養深化科目群

●教養深化特別演習(基礎・総合)

基礎:多角的に分析し複合的に把握する能力を身につける。

総合:基礎で習得した能力を実践を通じてさらに向上させる。

●サイエンスリテラシー特別演習(基礎・総合)

数理的思考とデータ処理・活用法を知り、自然科学研究の最先端に触れ、的確に伝えるスキルを学ぶ。

●教養深化特別講義 多様な視点から物事を俯瞰的に捉える力を養う。

ジェネリックスキル科目群

●ジェネリックスキル特殊講義

「キャリアマネジメントセミナー」仕事において必要となる実践的なスキルや考え方を身につける。

●ジェネリックスキル特別演習

「キャリア形成」企業等で活躍するゲストの講演からキャリア形成の視野を広げる。

修了要件を満たすとディプロマを取得

国内外の企業、公的機関等で活躍できる人材に!



教養深化プログラムの詳細は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://cep.let.hokudai.ac.jp/>

人間知・脳・AI教育プログラム (CHAIN^{※3}教育プログラム)

「人間」にも科学技術にも通じた 高度人材に成長

人文社会科学・脳科学・AI研究が交差する地点で

「人間」について多角的に学ぶ文理融合型教育プログラム。

人文社会科学、神経科学、人工知能等の各領域を専攻する大学院学生が、

所属大学院を超えて学際的共同研究に参画し、

関連する知識・技能を学びながら、それぞれの専門的知見・技能をも深めていきます。

必要な単位を修得した履修生には、修了証書が授与されます。

※3) CHAIN
Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience
人間知・脳・AI研究教育センター



プログラムの概要

プログラム・ベースド・ラーニング

人文社会科学、神経科学、人工知能の各領域の中から、自分の専門としない分野の基礎知識とスキルをコースワークを通して学ぶ。

プラットフォーム・ラーニング

国内外から招へいた第一線の研究者によるSS^{※4}とWS^{※5}に参加。学際的議論を通して研究の最先端に触れ、ネットワーク形成も行う。

プラクティカル・ラーニング

学内外の研究室へのインターンシップ、海外の研究室への研究留学、連携企業でのインターンシップを通して、自ら得た知識・スキルを実地に生かす。

※4) SS : サマースクール ※5) WS : ウィンタースクール

履修モデル

修士課程1年から5年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
●修士課程1年目 人間知序論I,II/ 入門ベジアン・モデリング/ ディープラーニング演習/ SS/WS	●修士課程1年目 人間知序論I,II/ ディープラーニング演習/ 脳科学入門/ SS/WS
●修士課程2年目 脳科学入門/ SS/WS	●修士課程2年目 哲学特殊講義/ SS/WS
●博士後期課程1年目 国内研究室インターン/ SS/WS	●博士後期課程1年目 研究留学/ SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/ SS/WS	●博士後期課程2年目 企業インターン/ SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

博士後期課程1年から3年間で履修する場合

人文社会系	自然科学系
修士課程1・2年目 各自専門の修士課程を修了	
●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/ 国内研究室インターン/ 脳科学入門/ ディープラーニング演習/ SS/WS	●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/ 哲学特殊講義/ 研究留学/ SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/ 入門ベジアン・モデリング/ SS/WS	●博士後期課程2年目 脳科学入門/ 企業インターン/ SS/WS
●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

各大学院での博士号取得と同時に「人間知」の修了証書を取得

本プログラム終了後は、研究者として学際的研究に従事したり、「人間」にも科学技術にも通じた高度人材として企業に就職したりといった道があります。博士後期課程修了者の就職も支援しています。



人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.chain.hokudai.ac.jp/education/>

★ 支援制度

この充実度は北大文学院ならではの 研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が整っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。2021年度より博士後期課程学生への多角的な支援が拡充され、若手研究者がより安心して研究に専念できるようになりました。

共生の人文学プログラム 大学院生の研究活動にかかる経費支援

旅費支援

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表および研究調査にかかる旅費を支援します（主として航空運賃の支援、宿泊費は含まれません）。

利用した先輩の声

渡航費を気にすることなく、国際学会にチャレンジできました。学会で国内外の研究者と交流することで、研究ネットワークを広げることができました。発表をもとに論文を執筆し、学術雑誌投稿につながりました。

校閲費支援

国際学会・国際研究集会での発表および国際学術雑誌、文学研究院の英文ジャーナル等への積極的な投稿を促すために、大学院生に対して発表原稿や投稿原稿の校閲（英文等の添削）料を支援します。

利用した先輩の声

2021年度より支援の上限が増額され、より使いやすくなりました。支援を受けることで、論文執筆スキルと語学力の両方が磨かれます。

在学留学生向け支援

日本語添削・校閲

文学院では、日本語を母語としない在学留学生向けに、日本語添削・校閲を行っています。学位論文のほか、発表応募原稿、発表読み上げ原稿など研究の進捗に資するものが対象です。

利用した先輩の声

日本語が不自然な理由の説明、修正の提案は大変わかりやすく丁寧です。今回の論文だけではなく、今後の日本語での研究活動の参考になります。

研究環境・経済支援 文学院では、大学院生の研究環境の整備と経済支援に力を入れています。

学振特別研究員制度/フェローシップ制度

博士後期課程学生への研究および経済支援が拡充されています。文学院の大学院生がチャレンジできる制度は以下のとおりです。

●日本学術振興会特別研究員

学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者の養成・確保を目的に、日本学術振興会が博士後期課程学生、博士学位取得後5年未満の研究者に支給するものです。

▶大学院生(DC1・DC2)研究費:年額150万円以内、生活費相当額:年額240万円

●ExcellenceとExtensionの融合による未来社会の開拓者養成プログラム (EXEX博士人材フェローシップ)

科学技術振興機構の「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」による制度。科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な博士後期課程学生への経済的支援およびキャリア開発を支援。

▶研究費:年額40万円+a、生活費相当額:年額216万円

●次世代AI博士人材フェローシップ

科学技術振興機構の「次世代AI人材育成プログラム(博士後期課程学生支援)」による制度。次世代AI分野(AI分野及びAI分野における新興・融合領域)に特化した少数精鋭のプログラム。

▶年額30万円+a、生活費相当額:年間360万円

TA・TF・RA制度

●ティーチング・アシスタント(TA)制度

学部および全学教育科目の教育補助として、優秀な大学院生をTAとして採用し、経済支援をしています。

●ティーチング・フェロー(TF)制度

博士後期課程の優秀な大学院生をTFとして採用し、経済支援をしています。TFは、教員と分担しながら授業を担います。

●リサーチ・アシスタント(RA)制度

研究プロジェクト等を円滑に進める研究補助として、優秀な博士後期課程の大学院生をRAとして採用しています。手当を支給することにより、研究に専念できる環境を提供します。



若手研究者支援セミナー 若手研究者向けに各種支援情報を届けるセミナーを開催しています。大学院生の研究支援や経済支援に関するさまざまな情報を提供します。

大学院生支援セミナー

文学院の新入生向けに、大学院生が受けられる支援全般を紹介するセミナー。文学院だけではなく、全学で行っている支援についても紹介します。

学術出版支援セミナー

学位論文を学術書として出版したい方向けの学術専門書の出版を支援するセミナーです。著書出版経験豊富な教員や出版社編集担当者からの話題とともに出版助成情報も提供します。



申請書の書き方セミナー

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、申請書を書く心構えや基礎情報を提供します。特別研究員に採用された若手研究者や審査経験のある教員に経験談やアドバイスを語っていただきます。

申請書の書き方相談会

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、個別相談を通してより実践的なアドバイスを受け、採択に向けて申請書をブラッシュアップすることを目的に開催しています。

海外研究支援セミナー

海外の研究機関や大学で研究をしたい、学位取得後は、海外でキャリアを積みたい、海外でフィールドワークをしたい等、海外に研究の場を広げてアカデミックキャリアを積んでいくための「はじめの一歩」を後押しするためのセミナーです。

キャリアパス支援セミナー

博士号取得後の進路について、文学院(文学研究科)で学位を取得した方がさまざまなキャリアパスプランについて紹介します。

Advanced-COLA

人文・社会科学系の博士課程を修了後、産業界で活躍している企業人をお招きし、大学の中では知ることのできない企業活動の実態やその魅力を語っていただくとともに、人文・社会科学系の学位の意義についても議論するイベントです。(先端人材育成センターと共催)

就職ガイダンス

キャリアセンターおよび外部講師による講演、内定者の体験談、質疑応答を中心としたガイダンスです。

充実した図書室

北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約373万冊、貴重な北方関係資料の所蔵など、質・量ともに国内屈指の文献資料を誇ります。文学部図書室は、蔵書数約15万冊、受入雑誌数は約2,700種あります。北大生であれば、リモートアクセスにより、いつでもどこからでも蔵書検索や電子ジャーナルへのアクセスが可能です。



論文発表の場を提供

大学院生の研究成果および研究活動を広く内外に公表するために『研究論集』および『Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences(英文ジャーナル)』という論文発表の場を設けています。発表論文は、北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)上で公開されます。



院生研究室

講座または研究室ごとに院生研究室が設けられています。博士後期課程学生専用の院生研究室も設置されています。



授業料減免・奨学金

入学科、授業料の納入が困難な学生に対して、入学科の減免または徴収減予および、授業料の減免制度があります。また奨学金制度も利用できます。

院生図書費支援

大学院生は毎年、一定金額の範囲内で図書を購入することができます。購入図書は学位論文執筆期間中、優先的に利用することができます。

受賞成果

2023年度 受賞者情報 文学院の豊かな支援・環境を活用して、数々の研究成果が発表されています。栄えある受賞者が続々輩出されています。

- 日本認知心理学会 優秀発表賞 晴木祐助さん(博士後期課程)
- 日本認知心理学会 優秀発表賞 市村風花さん(修士課程)
- 応用哲学会 発表賞 清水颯さん(博士後期課程)
- 日本リスク学会 大会優秀発表賞 相馬ゆめさん(修士課程)
- 合意と共創研究会 学生優秀発表賞 相馬ゆめさん(修士課程)
- 日本植生史学会大会 優秀発表賞 平岡和さん(博士後期課程)
- 環境教育研究・実践奨励賞 若手研究奨励部門奨励賞 尾辻朋音さん(修士課程)
- 北海道大学大塚賞 許開軒さん(博士後期課程)

このほかの年度の受賞情報は
<https://www.let.hokudai.ac.jp/research/award-record>よりご覧いただけます。



さらに詳しい支援情報は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal#1-5>

留学支援

北海道大学では53か国の国や地域において、204機関と200の大学間交流協定を結び(2024年3月現在)、グローバル教育や研究を推進しています。文学院では、24大学等と部局間交流協定を締結し、そのうち13大学と「学生交流覚書」を取り交わし、独自の交換留学制度を設けています。教務担当の国際交流担当者が、文学院生向けの「留学ガイドブック」を発行し、部局間交流協定校および大学間交流協定校への留学を支援しています。

部局間交流協定校

- 台湾 国立雲林科技大学
- 中国 南京理工大学
- クロアチア ザグレブ大学
- イギリス サセックス大学
- フランス パリ大学
- 台湾 国立高雄大学
- 中国 特別行政区 香港大学
- イギリス ロンドン大学
- イタリア バドヴァ大学
- 中国 南京農業大学
- アメリカ アリゾナ大学
- イギリス マンチェスター大学
- ドイツ デュースブルク・エッセン大学

人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

人文学専攻

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに――。

■主な講義題目

哲学倫理学研究室	■英米哲学論文講読 ■フランス・スピリチュアリズム研究 ■現象学と意識・認知の哲学 ■数理論理学の諸相
宗教学インド哲学研究室	■宗教学と死生学・生命倫理 ■仏教学専門文献講読 ■インド哲学専門文献講読
日本史学研究室	■植民地朝鮮の社会と文化 ■近世蝦夷地在地社会論 ■日本中世史の諸問題 ■古代法制史料の研究 ■近代日本の諸問題
東洋史学研究室	■宋代史料講読 ■アラブ・イスラーム史研究 ■オスマン朝史研究 ■中国近代史研究
西洋史学研究室	■近現代ヨーロッパ史研究 ■アメリカ史研究 ■現代歴史学の諸問題 ■フランス近現代の国家と社会 ■中近世ヨーロッパ史研究
考古学研究室	■考古資料分析の実践 ■物質文化と先史社会 ■考古学と考古科学
文化人類学研究室	■人類学(再)入門 ■人類学を实践する
芸術学研究室	■芸術学の諸問題 ■美学史研究 ■美学文化学研究報告
博物館学研究室	■博物館と地域資料 ■動物と人の関係史
欧米文学研究室	■Scholar and Scholarship ■アメリカ文学研究の基礎 ■スラヴ文化研究 ■フランス文学研究の諸問題 ■古代ギリシア語文献読解
日本古典文化論研究室	■古代文学研究 ■浮世草子研究 ■源氏物語解析
中国文化論研究室	■「五行大義」研究 ■明清民国文学研究 ■「朱子語類」研究 ■『苔深漁隱叢話』精読
映像・現代文化論研究室	■日本現代文化の諸問題 ■現代表象文化研究 ■ジェンダー研究 ■視覚文化研究
言語科学研究室	■アイヌ語学の諸問題 ■日本語アクセント論 ■ロマンス語対照言語学 ■古典日本語研究の方法と実践 ■認知意味論研究 ■ロシア語学・スラブ語学の諸問題 ■日本語統語語用論研究
スラブ・ユーラシア学研究室	■Soviet History, 1917-1991 ■ロシア帝国論 ■中東欧・ロシア近現代史 ■中欧・バルカン半島の言語と社会 ■ロシア文化論 ■中欧・バルカン半島の言語と社会 ■スラブ・ユーラシア地域の経済 ■中東欧比較政治論 ■北極域の国際関係 ■前近代ユーラシア環境史 ■比較の中の中央ユーラシア史
アイヌ・先住民学研究室	■アイヌ・先住民政策史 ■アイヌ・北方先住民の宗教 ■先住民の言語と文化 ■アイヌ・北方先住民民族史 ■先住民と交差性(インターセクシュナリティ) ■アイヌ・先住民学総論 ■先住民文化遺産と考古学

■修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○修士 Proof Theory of Public Announcement Logic / ヘーゲル論理学における「物自体」概念の深化ーカント哲学の根本問題への応答ー ●博士 西田幾多郎の自覚の哲学ー知識論と行為論におけるその展開ー
宗教学インド哲学研究室	○修士 女性霊性運動研究再考ーリーアン・アイスター研究を中心に / 初期シャンカラ学派における無明論の研究 サルヴァジュニャートマンを中心に ●博士 Organ Transplantation Metaphors - A Comparative Corpus-Based Study of Life Depictions in Newspapers
日本史学研究室	○修士 アイヌ民族が所持したクワサキについて / 明治前期札幌における官営工場の雇用と労働 ●博士 連合艦隊論
東洋史学研究室	○修士 州制下オスマン帝国における警察行政・ドナウ州及びボスニア州での展開と構造 / 人丁から民数へー十八世紀清朝における人口の発見 ●博士 17世紀オスマン朝ーヴェネツィア間の「海賊」をめぐる海上秩序
西洋史学研究室	○修士 12世紀オークニー諸島を取り巻く海域世界 / 18～19世紀フランスにおける民衆の婚姻・家族の変遷 ●博士 近世アルザスをめぐる権力秩序ー神聖ローマ皇帝・フランス王・帝国等族ー
考古学研究室	○修士 縄文文化期から統縄文文化期における人類の自然環境への適応ー石狩低地帯を中心にー / 岩手県宮野貝塚出土動物遺存体の研究 ●博士 近世日本のニトリ利用に関する動物考古学的研究
文化人類学研究室	○修士 日本の都市におけるイレズミ研究ー彫り師の経験を手がかりにー Music as a Peace Resource : Examining Efforts and Impact of a Kosovar Band in the Western Balkans ●博士 フィンランドの樹木とともに生きる世界ー死者のカルシッコに見る「エラマ」の物語ー
芸術学研究室	○修士 世阿弥の物まね論の様相ー「本意」と「我意分」の意義をめぐってー / 嶺南画派と近代日本の画壇との関係ー高剣父と京都画壇を中心に ●博士 狩猟塔トーレ・デ・ラ・バラダの絵画装飾研究ー16,17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連からー
博物館学研究室	○修士 鑑賞後の語りによる意味づけの研究ー旧夕張市美術館収蔵コレクションの展示価値に関する考察ー / 生物的特徴に基づく鶴の物語の特性に関する研究ー日本、中国、アイヌの物語を対象に ●博士 エゾオオカミをめぐる歴史と文化:日本における研究史およびオオカミ観形成過程の検討
欧米文学研究室	○修士 Act to Live: Performance as the Way of Life in J. D. Salinger's "Uncle Wiggily in Connecticut" / ロシア文学のなかのサハリンーE. ヴェルキン「サハリン島」を中心にー ●博士 Literary Fathers and Sons: Charles Dickens, Mark Twain, Sherwood Anderson, and Paul Auster
日本古典文化論研究室	○修士 根之堅洲国の意義 / 三条西家本「和泉式部日記」不審本文考 ●博士 太閤記物の研究ー権力と文学の関わりに注目してー
中国文化論研究室	○修士 「金瓶梅詞話」における性描写について / 『易林』における神仙思想ー西王母を中心に ●博士 陶淵明の隠逸詩とその思想
映像・現代文化論研究室	○修士 西尾維新ミステリ論 / ヒッチコック映画論 ●博士 表象としての <木戸孝允>ーイメージのー五〇年史ー
言語科学研究室	○修士 現代日本語における授受補助動詞を用いた敬意表現の使用動機と効果についてー「品行」概念を使用したボライネス理論再考とともにー / 日本語における再帰性の研究 ●博士 日本語の対称表現の社会語用論的研究
スラブ・ユーラシア学研究室	○修士 ジョージアのLGBTが直面する現状とクィア映画に見られるLGBT表象:政治・宗教・社会的観点からの分析 / L. N. グミリョフに見られる無自覚の構築主義ー主観的定義に基づくエトノス理論とその諸機能ー ●博士 Building of "Nomadic Socialism": State and Society in the Making of Soviet Kyrgyzstan
アイヌ・先住民学研究室	○修士 アイヌ語東別方言における祈り言葉の研究 / 古代蝦夷の形成ー文化と社会の実態 ●博士 アイヌ文化とアイヌ文化財制度の研究ー台湾先住民民族文化財との事例比較ー

他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>

哲学宗教学講座

本講座の研究領域は、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらに、現代の諸問題に関わる生命・環境倫理学、情報科学や神経科学との学際的研究まで、多様な研究が行われています。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐる様々な考察の吸収・継承・展開のためには、思考力・感性・表現力を不断に磨くことが要求されます。さらに各分野の主要テキストと本格的に取り組むために古典語を含む複数外国語の習得が必要となる領域もあります。



●哲学倫理学研究室



●宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと、世界中の幅広い地域を対象として、このような試みのための場を提供しています。



●日本史学研究室



●東洋史学研究室



●西洋史学研究室



●考古学研究室

文化多様性論講座

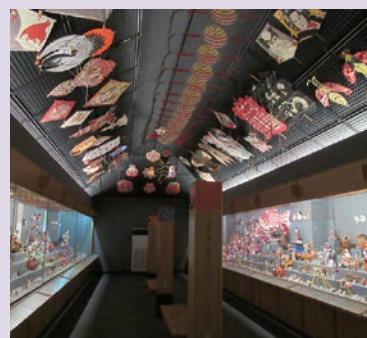
この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野の教員が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。



●文化人類学研究室



●芸術学研究室



●博物館学研究室

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、西洋古典、スラブ語圏、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析し評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。英語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語等のヨーロッパ系言語学、韓国朝鮮語やアイヌ語を中心とするアジア系言語学、国語学、日本語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻繁に開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上におよそ5000の先住民が暮らしています。先住民学は、ほかの学問領域よりも比較的新しい研究領域ですが、研究課題は幅広く、先住民を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会、法制度開発など様々です。研究では、課題ごとにそれぞれ独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座には、歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の教員が在籍しており、アイヌ民族をはじめとする世界の先住民について領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室

哲学宗教学講座

哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

村松 正隆 教授

MURAMATSU Masataka

研究内容

個人の自由と共同体の秩序の緊張という永遠の課題を遥かに見据えつつ、フランス革命の時代から現代に至るフランスを中心とした西欧哲学の変遷を、同時代の自然科学や社会制度・教育制度との関係の中で研究している。



▲母子の声かけに代表される「声」が取り結ぶ人と人との間柄にも、今後の研究テーマとして関心を寄せている。

〈私〉という存在者を知り
幸福の形を増やす手がかりに

数あるフランス哲学の魅力の中に、人間の感情のあり方を大切にすることがあります。なかでもメヌ・ド・ピランは、〈私〉を軸に身体や感情とはどういうものなのかを丁寧に記述しようとした哲学者です。このピラン研究に魅せられた私が哲学を通じて皆さんに知ってほしい学びは、「幸福の形を増やす」ということ。〈私〉を〈私〉として特徴づける要素に理性や意志、そして感情があります。では、自分がどういう時にどんな感情を抱くのか、〈私〉がいかなる存在者なのかを意識的に自覚し、そこに派生する周囲との関係を整理して生活を考えていく。この一連の思考が幸福の形を増やす手がかりであると考えています。



▲ソルボンヌ大学と、その前の広場に立つオーギュスト・コント像（学生撮影）。

文章スキルも磨く論文指導
「書き出す」一歩を後押し

修士課程における論文指導は、論証の構造はもとより先行研究の引用方法や接続詞、句読点に至るまで細やかに見ることをモットーとしています。修士論文の推敲と同時に人前に出しても恥ずかしくない文章能力に磨きをかけていく。社会人としても大いに発揮できるスキルの習得を念頭に置きながら接しています。他方、博士課程の院生にはテーマの選び方からより専門的な目線での懇切指導を心がけています。大作を書こうと思い入れが強いあまりに筆が進まないときは、「まず書き出してみよう」と背中を押ししたい。研究者共同体の一員になるまでの道のりをしっかりと見守ります。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐野 勝彦 教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
論理学(特に非古典論理、哲学的論理学)

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学(特に現象学)、
意識の学際的研究、日本哲学

村松 正隆 教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

宮園 健吾 准教授 MIYAZONO Kengo

■研究分野
心の哲学、心理学の哲学、精神医学の哲学、
美学、認識論、近世哲学

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学(特にワイトゲンシュタインの哲学)

哲学宗教学講座

宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、宗教学・宗教史学、死生学、仏教学、インド哲学などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

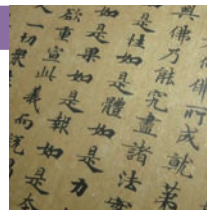
Lab.letters 教員からのメッセージ

林寺 正俊 教授

HAYASHIDERA Shoshun

研究内容

日本の古写経や仏教の思想について研究しています。



▲北大図書館が所蔵する平安写経のレプリカ。「古写経画像のデジタル化・データベース化が進めば、現地に赴いて古写経の実物を閲覧するという制約を離れたテキスト研究が可能になります」と林寺教授も期待を寄せている。

文化財から“テキスト”へ
日本の古写経研究に新たな動き

従来、日本の古写経はその歴史的な価値から美術品や文化財として大切にされてきましたが、今、そうした流れに新しい動きが加わりつつあります。近年、国内では一部の古写経をデジタル画像にしたりデータベースにしたりする事業が進められ、まさに本文テキスト研究の対象資料として内容の検証が試みられ始めているのです。私もこの新しい取り組みに魅せられた一人であり、世界標準の漢語仏典テキストとして広く活用されている『大正新脩大藏經』（底本は高麗大藏經再雕版）と日本の古写経などとの比較検討をおこない、そこに差異がみられる場合、どちらが本来の読みや内容を保持しているのかという問題などについて考究しています。



▲写真は研究室所蔵のサンスクリット仏典写本の影印資料。

仏教学を専門的に学べる
道内唯一の大学

私自身の研究においても学生の皆さんへの指導にあたっても、異読を含め一字一句をおろそかにしない、という姿勢を大切にしています。後世に伝わる異読や異本は果たして伝承過程で起こった単なる誤りによるものなのか、それとも何らかのわけがあるのか。また、異読や異本によって仏典本文の意味内容は変わるのか、それとも変わらないのか。一字一句を丁寧に読み解くという作業を通して、物事をさまざまな点から見るという複眼的な視野を修得していければと思っています。

北海道大学は道内で唯一、サンスクリット語やパーリ語といったインド古典語をはじめ、仏教学を専門的に学ぶことのできる大学です。私もその一員として、仏教に関心のある学生さんの学びを応援していきたいと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

林寺 正俊 教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 教授 MIYA-JIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

眞鍋 智裕 准教授 MANABE Tomohiro

■研究分野
インド哲学、インド哲学史

歴史学講座

日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代についての、日本および中国大陸・朝鮮半島・北方地域を視野に入れた実証的研究が特徴です。これまで、実に多くの研究者が輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史一次史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境に恵まれています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

川口 暁弘 教授

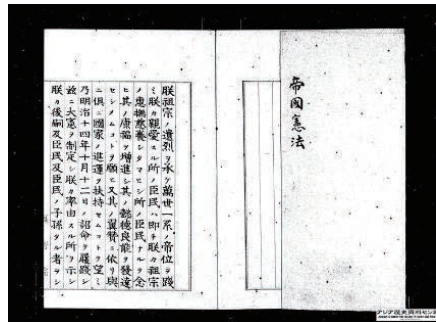
KAWAGUCHI Akihiro

研究内容

明治憲法下の国家運営の諸相に関する、思想・制度の問題をふまえた政治史研究。



▲明治22年2月5日に印刷された大日本東京吾妻橋真画「憲法発布式大祭之図」三枚続の一部（川口教授所蔵）。



▲大日本帝国憲法（明治憲法）の冒頭。出典：JACAR(アジア歴史資料センター) Ref.A03020029600、御署名原本・明治二十二年・憲法二月十一日・大日本帝国憲法。

アメリカ18回、スイス119回
日本ではまぼろしの憲法改正

世界各国の憲法改正状況を調べると、アメリカは18回、ドイツは43回、スイスにいたっては119回も、憲法を改正しています。わが国では1回です。日本国憲法は、大日本帝国憲法の改正によってできたものです。ところがこの事実は、日本人の歴史認識になっていません。まぼろしの憲法改正なのです。一方、1890年に施行された大日本帝国憲法は1946年まで一度も改正されたことがありません。1947年に施行された日本国憲法は本日ただいまにいたるまで、一度も改正されていません。どうやら私たち日本人は『一度作った憲法を改正することなく使い続ける』特異な傾向を持っているようです。これらの興味深い現象の原因を究明するのが、私の仕事です。

自分がおもしろいと思える
研究テーマで常識を再検討

「時代の機微に応じて憲法を改正する」という世界の常識が実は日本には当てはまらないように、我々を取り巻く常識を再検討することで見えてくる世界のありようを自力で明らかにするのが、この学問の醍醐味です。題材選びを他人に委ねたり研究の近道を安易に追いかけてりしては、残念ながら自身の成長につながりません。幸い北海道大学には落ちついてものを考えられる静かな環境があり、励まし合える先輩後輩もいます。私も皆さんの研究意欲を刺激できるように明治憲法史への尽きない関心を盛り込んだ授業で応援しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

川口 暁弘 教授 KAWAGUCHI Akihiro

■研究分野
日本近代史、明治憲法史

権 錫永 教授 KWEON Seok-Yeong

■研究分野
日本近代思想史、植民地期朝鮮文化史

谷本 晃久 教授 TANIMOTO Akihisa

■研究分野
日本近世史、北海道地域史

橋本 雄 教授 HASHIMOTO Yu

■研究分野
日本中世史、東アジア海域史

吉田 拓矢 講師 YOSHIDA Takuya

■研究分野
日本古代史、天文暦算史

歴史学講座

東洋史学研究室

東洋史学研究室では、漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語等多様な言語で書かれた史料を読むことで、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。

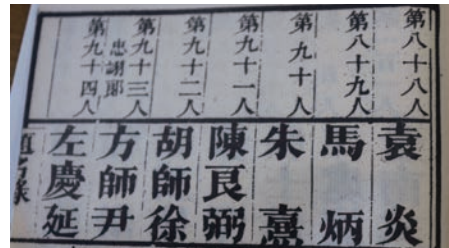
Lab.letters 教員からのメッセージ

梅村 尚樹 准教授

UMEMURA Naoki

研究内容

中国前近代史を担当。専門は宋代の社会史・思想史ですが、当時の知識階級である士大夫（士人）層が、唐から明くらいまでの長いスパンの中で、どのように変化してきたのか、社会と思想の相互作用を手掛かりに研究を進めています。



▲朱子学を大成した朱熹が科挙に合格した年の合格者名簿「紹興十八年同年小録」。成績順にグループ分けされており、朱熹は第五甲の九十人目。順位は下位だが、十九歳での合格は合格者の中で最年少だった。



▲北京にある国子監の石経。儒教の経典は石に刻まれ、それをもとに本が作られた（梅村准教授撮影）。

中国を変えた科挙と学校、
地域社会との関わりを見つめる

宋代に拡充された科挙によって、中国社会の政治と社会は大きく変わりました。科挙制度の浸透とともに受験者数は急増し、彼らが集う各地の「学校」は儒教の儀礼祭祀を行う学び舎であると同時に、中央での出世に備えて自分を売り込む人脈づくりや、地域の有力者・知識層同士がつながる地域コミュニティの場としても機能するようになっていきました。科挙合格の壁は非常に高く、大多数の受験者は不合格のあとに続く、その後の人生をどう豊かに生きていくか、という問いに向きあいます。人文学とは、人間とその人間の集合である社会を知る領域であり、私の研究もまた、中国の科挙というエポックメイキングな制度が及ぼした人々への影響や社会との関わりを見つめています。

書かれていない背景を掴む
深彫りの魅力、漢文史料

漢文史料の精読は一足飛びに上達することは難しく、やはり膨大な量を読んで勘どころを養うのが一番の近道だと感じています。史料の書き手である中国の知識層が書く文章は、四書五経に代表されるような暗黙の共通理解が前提となっており、書かれた単語一つとっても、その背後に潜む“書かれていない背景”を読み解く力が重要になってきます。はじめは謎説きのように感じるかもしれませんが、読んだ分だけ糧となり、オリジナリティある研究へと結実していきます。

北海道大学は中国史研究の伝統があり、私の研究室でも宋代に限らず、さまざまなテーマに関心を持つ学生を歓迎します。深掘りできるからこそ面白い漢文史料の世界で、皆さんの来訪を待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐藤 健太郎 教授 SATO Kentaro

■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■研究分野
中国近現代史、南中国、民族問題、学術史

梅村 尚樹 准教授 UMEMURA Naoki

■研究分野
宋代社会史、思想史

末森 晴賀 講師 SUEMORI Haruka

■研究分野
オスマン朝・トルコを中心とする西アジア史

歴史学講座

西洋史学研究室

西洋史学研究室では、中近世から近現代へといたるヨーロッパとアメリカの歴史を対象として、政治史、経済史、社会史、文化史などのアプローチによって研究をおこなっています。また最近では、ジェンダーやナショナリズム、植民地主義や移民といった新しいテーマにも取り組んでいます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

安酸 香織 准教授

YASUKATA Kaori

研究内容

中世後期・近世ヨーロッパにおける政治秩序の研究。主たるフィールドはアルザスとライン上流域。



▲16世紀初めのライン上流域の地図（出典：Martin Waldseemüller, Tabula Nova Particularis Provincie Rheni Superioris, Straßburg 1513, Bibliographic Metadata, Landesbibliothekszentrum Rheinland-Pfalz, <https://www.dilibr.de/rlb/content/titleinfo/128034>）。



▲アルザスの中心都市ストラスブールの街並み。ライン川支流のイル川の向こうに大聖堂が見える（安酸准教授撮影）。

ドイツ・フランス・スイスが交わる 注目の「ライン上流域」

ライン川を挟み、東にドイツを望むフランス北東部のアルザス地域史研究において、近年、ライン川を単に両国の境界線と見るのではなく、両岸を含めた境界域として捉える「ライン上流域」という新しい視角が注目されています。その中でも私は中近世の紛争・係争に焦点を当て、例えば経済的にも重要なライン川の航行に関する権利をめぐり、対立・妥協・調和を繰り返しながら柔軟な紛争解決を図る境界域の秩序を明らかにしようとしています。中近世ドイツ帝国（神聖ローマ帝国）とフランス王国にまたがるアルザス史は、スイス盟約者団を含めるとさらに複雑な様相を呈しますが、その重層的な秩序をフランス語・ドイツ語・ラテン語の史料を用いて少しずつ解きほぐしています。

自分の中に生まれた関心を 問いかけにしてアウトプット

私は学部1年時に山本文彦先生の神聖ローマ帝国史の授業を聞いて歴史学の面白さに魅せられ、現在に至ります。もともと歴史が得意なわけではなかったのですが、だからこそ新鮮な視点で研究を続けてこられたように感じています。歴史学は現在から過去に問いかけ、史料を介して過去との対話を繰り返す学問です。先行研究の内容をインプットするだけでなく、それらを批判的に読み、自分の中に生まれた関心や違和感を学術的な問いかけとしてアウトプットする力が非常に重要です。時には学外の文献・史料にもあたり、膨大なデータを整理していくと「問い」の解像度はさらに上がり、その先に見えてくる自分だけの発見が、大きな喜びとともに皆さんを待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

長谷川 貴彦 教授 HASEGAWA Takahiko
■研究分野
近現代イギリス史、歴史理論

松嵜 明男 教授 MATSUSHIMA Akio
■研究分野
近現代フランス史

村田 勝幸 教授 MURATA Katsuyuki
■研究分野
アメリカ史、アメリカ研究

山本 文彦 教授 YAMAMOTO Fumihiko
■研究分野
ドイツ中世・近世史

安酸 香織 准教授 YASUKATA Kaori
■研究分野
近世ヨーロッパ史、アルザス地域史

歴史学講座

考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学、文化財科学・年代測定の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフが、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

江田 真毅 教授

EDA Masaki

研究内容

遺跡から出土した動物、とくに鳥類の骨を主に研究しています。これらの骨を土器や石器と同様に「遺物」と捉え、過去の人々の生活を復元する一方、「動物の死体」と捉え、過去の動物の生態を復元しています。



▲遺跡資料の分析を端緒に2020年11月には現在「アホドリ」と呼ばれる鳥が2種からなることを明らかにした研究成果を発表。画像はその「2種」が生息する伊豆諸島の鳥島。

鳥のかたわらに人間あり 物言わぬ骨に過去を聞く

動物考古学とは動物の骨から過去の人々の生活を考える学問です。そのなかでも私は鳥類に軸足を置いて研究しています。例えば、ある遺跡で骨髄骨一産卵前後の数週間だけ骨の中にできる二次的な骨ですーを含むヤマドリの雌の骨が見つかった場合、「この遺跡にいた人々は卵を温めているヤマドリを捕らえるとともに、卵も食べていたかもしれない」という仮説が考えられます。土器や石器の研究だけではなかなか解明できない問いかけを、動物の骨を糸口に論理的にひもといていく。それが動物考古学の面白さだと考えています。国内に鳥類を専門とする研究者は私だけです。そのため、国内外のさまざまな時代の遺跡から出土した鳥骨が寄せられ、それぞれの同定を進めています。



▲2019年6月にはナスカの地上絵に描かれた鳥を同定した研究成果を発表。この「ハチドリ」はナスカ周辺に生息しないカギハシハチドリ類と同定され、世界的な話題となった。

打ち込めるテーマを探し 名推理で自説を構築

遺跡から出土した「モノ」から語る考古学は、一足飛びに答えにたどり着ける学問ではありません。まず自分で「こうではないか」という妄想を膨らませ、仮説を立てて一つ一つ証拠を集めていく。映画や小説で名探偵が発揮するような推理力が求められます。自分自身で思いついた妄想でなく、高いモチベーションを保ち続けるのは難しいもの。骨を様々な角度から見て「これだ!」と没入できるテーマを見出してください。北海道大学にはさまざまな脊椎動物の標本を収蔵する総合博物館があり、また北海道は保存状態の良い動物骨が多数出土する、格好のフィールドです。ぜひ一緒に北海道から動物考古学を盛り上げていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

江田 真毅 教授 EDA Masaki
■研究分野
動物考古学、考古鳥類学、文化財科学

高瀬 克範 教授 TAKASE Katsunori
■研究分野
考古学、植物考古学

國木田 大 准教授 KUNIKITA Dai
■研究分野
考古学、文化財科学

高倉 純 助教 TAKAKURA Jun
■研究分野
考古学、文化財科学

中澤 祐一 助教 NAKAZAWA Yuichi
■研究分野
考古学、人類進化史

文化多様性論講座

文化人類学研究室

この地球上で人類はそれぞれの自然環境に応じて、多様な文化を育んできました。文化人類学とは、自然と結びついた文化の多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

Lab.letters 教員からのメッセージ

小田 博志 教授

ODA Hiroshi

研究内容

自然と人間、生物多様性と文化多様性のつながりを捉えることができる枠組みを、「いのち」「自発性」「多様性」「脱植民地化」「平和」をキーワードに探求。そのために森林再生、土地に根ざした農耕と種子の保全などの具体例を、地球各地の現場を歩きながら、エスノグラフィーのアプローチで調べている。



▲小田教授は研究テーマ「平和」のためにナチスドイツの強制収容所があったチェコのテレジンで調査をした。国境を越えた草の根の交流が行われている。写真は収容所の塀を修繕しているサマーキャンプの一面。



▲ドイツによる「20世紀最初のジェノサイド」が行われたとされるアフリカのナミビア・オカカララ地区に建設された文化センター。ここを訪れて歴史を学び、現地の人たちと交流するドイツ人も増えてきている。

南極基地でも宇宙でも エスノグラフィーの現場は無限

近年、注目が高まる「エスノグラフィー」とは、研究対象となる地域や集団の「現場」に立脚した方法論です。調査協力者が実際にどのような生活、活動をしているのか、研究者自身が現場に入り込み行動をともにすることで詳細を明らかにしていきます。南極基地でもスペースシャトルの中でも、人間が活動している現場ならどこでもエスノグラフィーの対象となる可能性を持っています。過去の指導学生が選んだ現場は高崎市のフィルムコミッション、世界自然遺産・小笠原諸島や被爆者団体など十人十色、各自が自分の中にある関心を掘り下げていきました。実践者であるエスノグラファーは、いわば社会の現場と学問研究の領域を行き交いする橋渡し役。活動する文化人類学者として持ち前の好奇心を存分に発揮できます。

採用担当者の心をつかむ現場体験 市場調査や防災対策にも応用可能

エスノグラフィーの強みは、現場で起きている事象を読み解き、論理性をもって体系化できること。これはそのまま就職活動の大きなアピールポイントになります。昨今は、米国に続き日本でも市場調査や商品開発にエスノグラファーを登用する企業が出てきました。大震災の経験などから学ぶ「災害エスノグラフィー」に代表されるように、今後社会でこの方法論の需要はますます拡大していくことを確信しています。研究と並行しながら人間的な視野を広げてくれる点でも、社会とあなた自身を結ぶエスノグラフィーの醍醐味が体感できるでしょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■研究分野
人類学、自発性研究、平和研究、生命論、エスノグラフィー論

山口 未花子 教授 YAMAGUCHI Mikako

■研究分野
人類学、自然誌、動物論、狩猟研究、北米先住民研究

コーカー・ケイトリン・クリスティーン 准教授 COKER Caitlin Christine

■研究分野
人類学、身体化論、パフォーマンス研究、情動論

田中 佑実 助教 TANAKA Yumi

■研究分野
人類学、樹木と人、芸術、北欧先住民研究

文化多様性論講座

芸術学研究室

芸術学研究室には、美学・美術批評史・西洋美術史・現代美術史を専門とする教員がおり、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的普遍的哲学的な方法と実証的個別的歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

浅沼 敬子 教授

ASANUMA Keiko

研究内容

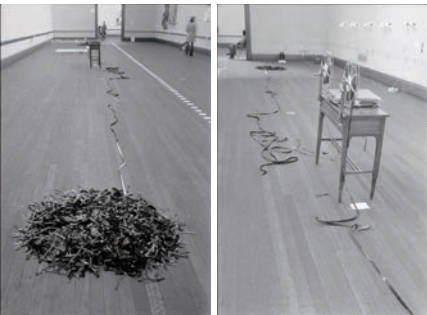
長くヨーゼフ・ボイスやゲルハルト・リヒターといった、ドイツの現代美術家について研究してきました。現在は、日本やアメリカの写真や映像の作品分析を通じて、人間と大地との関係の変遷を調べています。



▲2014年開催の山城知佳子上映会＋トークより（左＝山城知佳子氏、右＝東京都写真美術館学芸員・岡村恵子氏、同志社大学の菅野優香氏と共催）。

土地と向き合う媒体としてのアート

長くドイツ現代美術史を研究してきた私にとって、映像インスタレーション作家・山城知佳子の作品との出会いは大きな転機となりました。山城作品によって沖縄の土地について考えるきっかけを得たことで、自分の住む北海道の土地の表現への関心が生まれ、露口啓二の写真の研究、紹介に繋がりました。そこからさらに現代美術や写真の歴史における土地—ひろくいえば大地—の扱いに関心がひろがり、1970年代アメリカのランドアートや風景写真について調査を行うようになりました。名のあるなしにかかわらず、芸術は、集団に包摂され得ない個々の感性や感情、発見や思索の表現であり、だからこそ私たちの感官にしばしば強く訴えます。そうした表現を「発掘」し、記述することは、社会の現状を捉えなおすだけでなく、未来への視座を得ることでもあるといえるかもしれません。



▲今井祝雄「ジョイントッド・フィルム」(1973年)より From the video installation artwork of Norio Imai "Jointed Films" (1973)。

新しい表現活動にオープンに

大学教育で心がけているのは、学生さんに美術史の基礎知識を持ってもらうということです。その「基礎知識」には、私の専門領域である1950-60年代以降の現代美術／現代アートの歴史も含まれます。私の学生時代は、教えられる美術史は伝統的な絵画史に基づいていて、映像やインスタレーション、パフォーマンス、アートプロジェクトといった現実のアートシーンとは連動していませんでした。ですから、大学でより新しい表現の歴史を教え、研究することは、私の願いでありました。現代の表現は、過去の表現の歴史と深くむすびつく一方で、しばしば、身近にありながら私たちが見逃している現実との出会いを生み出します。そのような出会いを提供するのも大学の一つの役目ではないか、そう考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

浅沼 敬子 教授 ASANUMA Keiko

■研究分野
現代美術史

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■研究分野
西洋美術史(イタリア美術史)

今村 信隆 准教授 IMAMURA Nobutaka

■研究分野
美学、美術批評史、博物館学

文化多様性論講座 博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察していきます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

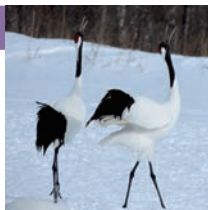
Lab.letters 教員からのメッセージ

久井 貴世 准教授

HISAI Atsuyo

研究内容

主に江戸時代の歴史資料を用いて、野生動物の過去の生態や分布を復元し、人との関わりを解明する研究に取り組んでいます。上野動物園を中心とする過去の動物園の記録から、近代日本の動物園における動物管理の歴史についても研究しています。



▲動物研究という動物学が真っ先に頭に浮かぶが、ツルを媒介に各研究分野をつなげる「歴史鳥類学」という視点を醸成している。



▲縁起が良いとされるツルは私たちの暮らしのなかにもたくさん「生息」している。ツルに関係するグッズを収集することも重要な研究の一つである。

古文書が語りかける ツルと人の共生の未来

江戸時代の鷹狩では「鶴」が重要な獲物であったという古文書の一文を見つけたとき、果たしてその「鶴」は主に北海道に生息するタンチョウなのか、もっと小柄なナベヅルだったのか。その特定を含め、文献に登場する動物そのものに焦点を当てて人との関わりを探る研究は、とても新規性の高い研究分野です。先行研究が少ない分、新たな記述を発掘する喜びがあり、文献調査にもいっそう身が入ります。

近年は道東に限らず、石狩低地帯でもタンチョウが目撃されるようになり、2020年には約100年以上ぶりに北海道長沼町や苫小牧市での繁殖が確認されました。地域の方々と一緒に現代らしい共生のあり方を考える時間もまた、大きなやりがいになっています。

優美にして凶猛な「湿原の神」 観察で鮮明になる文献の真実

アイヌ語でサロルカムイとも呼ばれるタンチョウは、優美で高貴なイメージがある一方で、アイヌの人々は「凶猛危険」な存在として畏れていたという記録もあります。私が初めて野生のタンチョウに対峙したとき、一瞬身の危険すら感じたその迫力にアイヌの人々がそう描写したくなる心情を、身をもって実感することができました。ツルを自分の眼で観察することで、文献が伝えようとした真実がより鮮明に浮かび上がってくる。貴重な学びとなりました。野生動物の宝庫、北海道には、タンチョウ以外にもヒグマやエゾシカ、オジロワシなどの魅力的な研究対象が潜んでいます。地域社会に根を下ろした野生動物研究の新しい扉を開いていきましょう!

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

久井 貴世 准教授 HISAI Atsuyo

■研究分野
動物に関する歴史と文化、博物館学、歴史鳥類学

卓 彦伶 講師 CHO Yenling

■研究分野
博物館学

表現文化論講座 欧米文学研究室

欧米文学研究室では、ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。英語圏文学・フランス文学・ロシア及びスラブ文学・西洋古典文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文献学・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

Lab.letters 教員からのメッセージ

小椋 彩 准教授

OGURA Hikaru

研究内容

ロシアやポーランドの文学を比較文学的見地から研究しています。



▲翻訳者との関係を大切にするトルチュクを2013年、日本に招聘した(左から二人目が小椋准教授、右隣がトルチュク本人、立教大学での講演会風景)。

星が瞬くスラブ語圏文学研究 ノーベル賞受賞作家の翻訳も

「絵を描く作家」アレクセイ・レーミゾフはロシアの亡命作家の一人であり、数多描き残した独特の視覚芸術で後世の人々を魅了しています。2018年にノーベル文学賞を受賞したオルガ・トルチュクは現代ポーランドを代表する作家であると同時に、文学の力で環境問題に寄与しようというエコクリティシズムの実践者でもあります。この二人のように、スラブ語圏の文学研究は新たな視点を持つ作家が星のように点在し、その切り取り方は皆さん次第です。〈文学と絵画〉や〈文学と映画〉などジャンルをクロスする視点もあるでしょう。私自身もワルシャワ滞在中にたまたま著書を手にとった縁で世界中にいるトルチュク作品の翻訳者に仲間入りし、彼らとの交流から大いに刺激をもらっています。



▲亡命ロシア文化に関心を持ちきっかけとなったレーミゾフはパリ郊外の墓地に眠る。カリグラフィーの名手でもあり、近年、視覚芸術面からの再評価も進んでいる。

質量ともに日本一の研究環境で 没入できたと思える経験を

日本のスラブ地域研究といえば、やはり北海道大学が質量ともに日本一。この優れた研究環境自体が唯一無二であり、頼れる研究者の宝庫であると確信しています。トルチュクに限らず、ロシア・ポーランドの文学者たちは伝統的に社会活動家の顔を持っており、現代を生きる皆さんが社会に抱く疑問や関心との接点を見つけることも決して難しくありません。自分の研究成果や最新情報を常に授業に還元するよう心がけており、皆さんの研究意欲がさらに高まるように後押しできればと思っています。レポート一本、論文一本でも心の底から「面白い!」と思えるものに没入できた、そう振り返ることができる経験を一緒に紡いでいきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

瀬名波 栄潤 教授 SENAH A Ejun

■研究分野
英米文学、英語圏文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究

竹内 修一 教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
アメリカ文学

戸田 聡 教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文献学(特に古代ギリシア語文献学)、古代キリスト教史

小椋 彩 准教授 OGURA Hikaru

■研究分野
ロシア文学、ポーランド文学、比較文学

宮下 弥生 助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英語英文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『源氏物語』に代表される古代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

Lab.letters 教員からのメッセージ

南 陽子 准教授

MINAMI Yoko

研究内容

井原西鶴を中心とした江戸時代前期の文化と文学を取り上げ、個々の作品をテキストと時代背景に即して理解することを重視しつつ、古典の継承と享受の問題にまで視野を広げることが目標としています。



▲井原西鶴「世間胸算用」巻二より。借金取りを追い返そうとする男を逆に若い借金取りがやり込める場面。金融系ドラマにも通じるリアルなやりとりが面白い。



▲寺から借用した大金を利息と共に見事「倍返し」した廻船問屋の話、「日本永代蔵」の「初午は乗ってくる仕合」の舞台となった大阪・水間寺。

今も見かける“困ったさん”
俗文芸の楽しさを入りに

「ないものはない」と言って借金取りに開き直る男もいれば、親に甘やかされた挙句、女に金の用立てを迫る商家の息子もいる。井原西鶴や近松門左衛門が描く市井の人々は、現代社会で言う“困ったさん”のご先祖たち。その一連の騒動や、あるいは庶民の成功譚をひもとく楽しさは、等身大の話が多い近世文学ならではの魅力です。彼らに何らかの興味を覚え、読み進めていくと次に待つのは、金銭感覚や恋愛観、社会通念など「どうしても現代を生きる自分にはわからないことがある」という新たな視点です。その違いを前に立ち止まり考えることで、「自分とは」「人間とは」を考える文学研究の本質が見えてくる。その奥深さに私も魅せられています。

「わからない」を遠ざけず
古典から受け取るものを考える

文学研究の上でも人生においても、「わかる」だけでなく「わからない」ことに対していったん立ち止まる姿勢は常に持ってほしいと考えています。その助けになればという思いから、授業では西鶴の会話文をペアで音読したり、テキストから「お金と命、どちらが大切か」を考察するなど、学生同士の意見交換が活発になるアクティブラーニングのような手法を導入し、「古典の言葉」を「自分の言葉」に引き寄せて考える練習をしています。古典とは、その時代時代の人々に読み継がれていくからこそ古典としてあり続ける。そのことを念頭に置き、「古典の言葉」から今の私たちが何を受け取るのかを、文学研究の伝統ある北海道大学で文章化していきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■ 研究分野
中世説話文学

南 陽子 准教授 MINAMI Yoko

■ 研究分野
近世文学

小林 理正 講師 KOBAYASHI Tadamasa

■ 研究分野
中古文学

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

近藤 浩之 教授

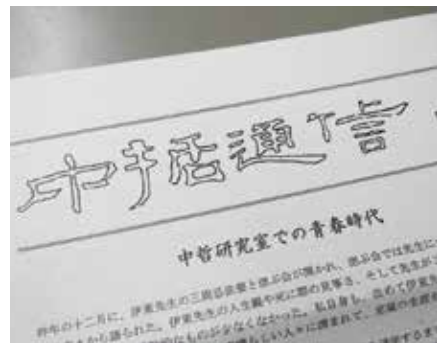
KONDO Hiroyuki

研究内容

中国湖南省長沙より出土した馬王堆漢墓帛書を中心として、出土資料に基づいて、中国古代の思想を研究している。



▲ついに完成した訳注本「易学哲学史」全四巻。



▲OBも楽しみにしている会報誌「中哲通信」。

師の遺志を受け継ぎ、足かけ8年
学びの絆で易学の大著を完成

日本では「占い」でおなじみの「易」ですが、中国では宇宙観や思想・学問すべての原理として最上位に置かれる經典です。そして北大の易学研究といえば、国内随一とも呼べる実績が自慢。平成21年春に、易学研究の大家・朱伯崑先生が記した『易学哲学史』の訳注（全四巻・総2068ページ）を出版しました。この一大事業の大黒柱であられた伊東倫厚先生が亡き後も、私を含む総勢37名がその遺志を受け継ぎ、足かけ8年の歳月をかけて完成させることができました。

研究者同士が手をたずさえて大志に挑む、北大ならではの“学びの絆”が生んだ大著だと、関係者全員が誇りに思っています。

そこまでののか、蘇秦の謀略
漢文から立ち上る新たな人間像

軽い気持ちで授業の題材に選んだ縦横家（外交交渉のプロ、また今でいう国際スパイ）の一人、蘇秦には驚かされました。『戦国縦横家書』に記されている彼の行動には謎が多く、人間関係や地理・起きた出来事の順序などを整理していくと、驚くべき人間像が立ち上がってきたのです。知略・謀略を尽くした嘘八百の中になった一つ、蘇秦が貫き通した真実が浮かび上がってきたときには、全身が震える感動を味わいました。

こうした探究心の源は「好きであること」の一言に集約されます。一文字もおろそかにできない漢文資料から新たな人間像を結ぶ感動のダイナミズムをあなたと一緒に体験しませんか。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■ 研究分野
中国古代思想、易学思想史

田村 容子 教授 TAMURA Yoko

■ 研究分野
中国演劇、中国文学

熊 征 講師 XIONG Zheng

■ 研究分野
中国古典文学、中国哲学

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

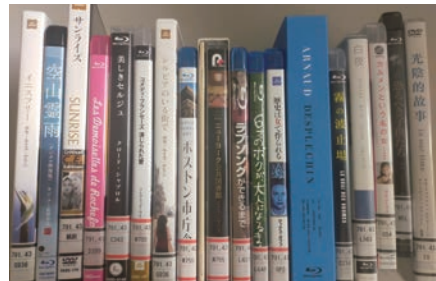
Lab.letters 教員からのメッセージ

応 雄 教授

YING Xiong

研究内容

映画論、表象論、中国映画・文学論



▲ゼミなどでこのような作品を取り扱っています。

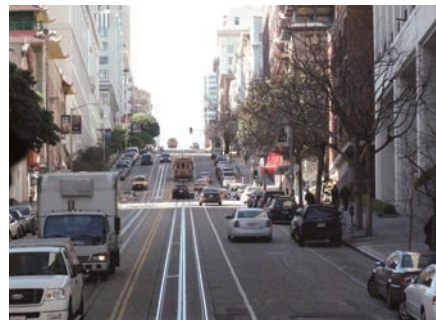
スクリーンを走る一秒間二四コマ 人生も映画のように走ればよい

「物質にせよ精神にせよ、実在は、われわれにとって、不断の生成としてあらわれる。……実在は、決して、できあがった何物のかではない」（ベルクソン）。

「神は計算して世界をつくるという話がまったく本当だとしても、その計算はけっしてきちんと割り切れるようになるものではない。計算の結果に残るそのような割り切れなさ、そのような解消されない不等性、それこそが、世界の条件をなしているのである」（ドゥルーズ）。「予定調和」に基づく古典的映画と異なり、真の現代的映画は、「出来損ない」の相貌を帯びつつ世界や人生を捉える。私もそれに似たようなアプローチを試みているところです。

偏りを排した幅広い教養を糧に 新しい変化を恐れない研究者へ

何を専門としているかと関係なく、人文学にまつわる幅広い知識を身につけてほしいと思っています。修士・博士論文では、先行研究をなぞるだけでなく、必ず新しい「何か」をあなた自身が書かなければなりません。その「何か」を見出す際にも、映画以外の広い教養がおおいに役立ってくれます。映像・表現文化論を含む人文学は、つねに新しい変化が待たれる分野です。現状に満足せず先に進むことを恐れない研究姿勢は、皆さんの人間としての成長をも後押ししてくれることでしょう。広がり新しい発見がつねに授業のキーワードになっています。



▲サンフランシスコの坂道は変化とともにある映画を誘う。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

応 雄 教授 YING Xiong

■研究分野
映像表象論

押野 武志 教授 OSHINO Takeshi

■研究分野
日本近代文学、表象文化論

水溜 真由美 教授 MIZUTAMARI Mayumi

■研究分野
近現代日本思想史、ジェンダー研究

川崎 公平 准教授 KAWASAKI Kohei

■研究分野
映像論、日本映画研究

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。日本語（国語学・日本語学）、英語、フランス語・ロマンス語、ロシア語・スラブ語、韓国朝鮮語、アイヌ語を中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

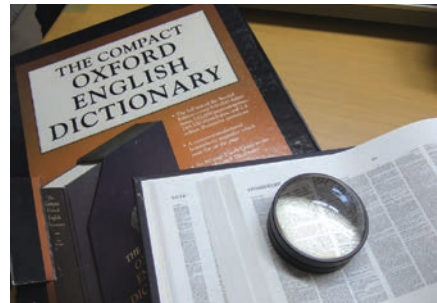
Lab.letters 教員からのメッセージ

野村 益寛 教授

NOMURA Masuhiro

研究内容

主な研究内容は、日英語を対象とした文法・比喩研究です。言語は人間の心が生み出したもので、言語を研究することは人間の心の働きについて知ることでもあるという立場から語や文が表す意味について考えています。



▲古今の英単語および引用文を網羅するオックスフォード・イングリッシュ・ディクショナリー。写真は野村教授がアメリカで買い求めたコンパクト版。「肉眼」では読めず、拡大鏡が必須。

裸眼と肉眼の違いって何だろう 言語から見る世界の切り取り方

日本語の「裸眼」と「肉眼」、皆さんは日頃何気なく使っている両者の使い分けを説明できますか。どちらも道具を使わずに物を見ることを指していますが、「裸眼」は眼鏡やコンタクトを、「肉眼」は望遠鏡や顕微鏡を使わずに見る状況で使用します。英語にはこれに対応する区別はなく、ともに the naked eyeと表現されます。

私たち人間は、言語でこの世界を認識する生き物です。同じ人間の中でも上記の例のように言語によって世界の切り取り方が異なり、それぞれの世界観を構築しています。私の学生たちは英語と日本語の比較や特定の英語の文法事項を「なぜ？」の視点で問い直し、言語と世界の新たなつながりを明らかにしています。



▲学びの集大成である博士論文は、写真のように立派なハードカバーの装丁をほどこした上で提出され、大学に所蔵されて閲覧に供される。

星座をかたどる線のように 見えなかった知を明らかに

言語は“暗黙知”と言われ、呼吸や歩行のように意識せずともできてしまうものの一つです。頭の中に入っている言語データを取り出し、分析することで暗黙のうちに使っていた仕組みをクリアに明文化する。星と星の間をつなぐ星座の線のように、これまで見えなかったものが見えてくる瞬間こそが学問の醍醐味と言えるでしょう。学生には「文献を正確に読むこと」に力を入れて指導しています。何がわかり、何がわかっていないのかを知ることが研究の出発点。読み方の指導で基本的なテクニックを身につけ、さらに自分なりの読み方をつかむと研究にもいっそう弾みがつきます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

李 連珠 教授 LEE Yeonju

■研究分野
言語学、韓国語学、音韻論

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■研究分野
言語学、日本語学、語用論

佐藤 知己 教授 SATO Tomomi

■研究分野
言語学、アイヌ語、北方言語

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

菅井 健太 准教授 SUGAI Kenta

■研究分野
ロシア語学、スラブ語学

葛 清行 准教授 TSUTA Kiyoyuki

■研究分野
国語学、文学、歴史言語学

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

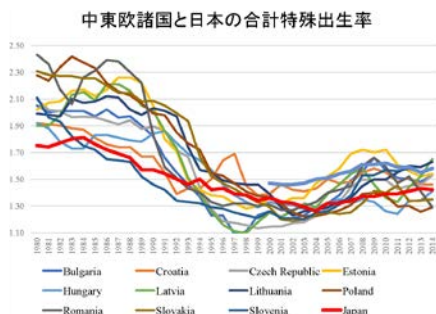
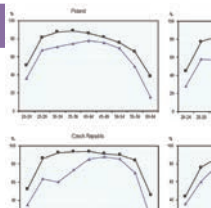
Lab.letters 教員からのメッセージ

仙石 学 教授

SENGOKU Manabu

研究内容

東欧諸国の経済政策および福祉政策について、政党政治を軸に地域内、および地域間の比較を行う。



▲体制転換後の1990年代の中東欧諸国では出生率が落ち込み、その後経済成長とともにゆるやかに上昇している。現在の日本（赤いグラフ）と同じく少子高齢化時代に突入したことが読み取れる。



▲世界情勢は日々刻々と変わっている。スターリン時代の象徴だったワルシャワの文化科学宮殿も、いまではライトアップした観光名所に変貌した。

福祉と経済を軸に
新興民主主義国の独自性を探る

1974年に独裁体制が崩壊したボルトガルから始まった民主主義の「第三の波」は世界を席卷し、東欧諸国など多数の新興民主主義国が誕生しました。一口に新興民主主義国といっても、各国における経済と福祉の政策は実に多様です。金融やサービス業が経済の中心を占める国では、子育てや介護は各世帯に委ねられ、家族が担うかあるいは市場サービスを頼みとすることが多いですが、バルト諸国の一部では女性の就労を促す制度が構築されています。他方で製造業が経済である程度の比重を占めている国では「男性労働者」の権利は厚く保護され、子育てや介護は家庭への支援が中心となっています。ただしスロヴェニアのように、製造業を主体としつつ女性の就労率が高い国では、比較的女性の就労に配慮した制度が存在する例もあります。こうした各国の現状を比較し、「なぜ違うのか」または「なぜ同じなのか」社会に通底する規則性を探っていきます。

知られざる地域を
自力で探究していく喜びが

私が指導する大学院生の研究対象は、日本ではあまりなじみのない《東欧》地域になります。最近でこそ日本での研究も増えてきましたが、それでもまだほとんど研究がなされていない分野や領域があるのも、スラブ地域研究の面白いところです。この他にもまだ各地に皆さんだから探し当てることができる研究テーマが潜んでいます。

我々地域研究者にとって英語と対象地域の言語の習得は必須です。特に大半の資料が英語論文であるため、専門知識を覚えるという意味でも英文の読解力を磨く必要があります。また、地域研究だからといって一つの国や地域に集中しすぎず、広い視野で世界を見つめることも大切です。地域を横断するまなざしで、新しい世界の法則を見出してください。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発など、先住民族を取り巻く様々な課題の研究を行います。歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学・考古学の視点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

山崎 幸治 教授

YAMASAKI Koji

研究内容

博物館資料の現代的意義とその活用に関心を持ち、アイヌ物質文化および博物館に関する研究をおこなっています。先住民に関する展示、アイヌ工芸の振興、海外アイヌ・コレクションについても研究をおこなっています。



▲北海道大学総合博物館で開催した「『アイヌ』のモノとイメージ」展。過小評価されがちなアイヌのお土産品に関する研究にも関心がある。



▲織物アットウシの原材料となるオヒョウの樹皮採取に同行。

アイヌ物質文化の現代的意義
思いを記述する並走者に

博物館に収蔵されている品々は、過去の歴史や文化を物語るだけでなく、未来に活かされる重要な文化資源です。私は、民具などのアイヌ物質文化を主な対象に博物館人類学の視点から研究をおこなっています。

展示の企画や実践、アイヌ工芸家との共同調査などもおこない、2009年に開催した、アイヌ民具を現代の工芸家に「複製」してもらった企画展では、古いモノに残る手技のあとを辿ることで各工芸家に新しい発見があったことがわかりました。今後もこうした場を生み出し、アイヌの人々が感じる思いや発見を間近で学ばせていただきながら、「並走する」研究姿勢を貫いていきたいです。

得難い環境のもとで
当たり前を疑う視点を大切に

私が所属する北海道大学アイヌ・先住民研究センターは2007年4月に開設されました。設立メンバーとしてスタートアップ作業に追われたことも懐かしく、2019年度からは文学院で「アイヌ・先住民学」に関する教育が始まっています。

アイヌ民族の先住の地である北海道に暮らす人々は、他地域にはない得難い環境のもとにあります。この場所にいるからこそ見えてくる史実や事柄を受け止め、同時に自身の「当たり前」を疑う柔軟な視点を大切にしてほしい。研究を通して未来を歩むヒントを一緒に探していければ、という思いでアイヌ・先住民研究に関心を持つ皆さんを幅広く歓迎します。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、先住民文化遺産、シベリア人類学

北原 モコツウナシ 教授 KITAHARA Mokottunas

■研究分野
アイヌ民族の宗教、アイヌ語、口承文芸

山崎 幸治 教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

石原 真衣 准教授 ISHIHARA Mai

■研究分野
文化人類学、先住民研究

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア民族史、日本古代史

教員紹介

青島 陽子 教授 AOSHIMA Yoko

■研究分野
中東欧・ロシア近現代、ロシア帝国統治構造

岩下 明裕 教授 IWASHITA Akihiro

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝国史

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

服部 倫卓 教授 HATTORI Michitaka

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済論

ウルフ・デイビッド 特任教授 WOLFF David

■研究分野
ロシア史、冷戦史

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化

諫早 庸一 特任准教授 ISAHAYA Yoichi

■研究分野
中央ユーラシア前近代史、
モンゴル帝国史、科学史

大西 富士夫 特任准教授 OHNISHI Fujio

■研究分野
国際政治、北極域研究、地域研究

ガヴランカペタノヴィッチ＝レジッチ ヤスミナ 助教 Gavrankapetanovic-Redzic, Jasmina

■研究分野
視覚文化、メディア研究、社会的記憶研究



「本格的な映画研究は60年代に始まったばかり。まだ手探りな部分が多く、自分も文学的側面と演劇的な側面を繋げた新しいブレッソン論を構築していきたいです。」

札幌の空気で深呼吸し 映画の解像度を上げていく

人文学専攻 映像・現代文化論研究室 博士後期課程

三浦 光彦 *MIURA Mitsuhiro*

父親譲りの映画好きを学びの原動力に
ブレッソン作品の謎を追いかけて続ける三浦さん。
自分のペースでコンテンツと向き合える札幌で
新しい映画論を組み立てようとしています。

素人を起用して物語を撮るブレッソン映画を解きほぐす

父が映画好きで、小さい頃から映画は身近なものでした。中学生くらいから監督を基準に映画を選び始め、映画の研究ができる大学を探して北大へ。東京はカルチャーのコンテンツ量が多すぎて、スピードも忙しくない。その点、北海道なら親元を離れて自分のペースでじっくりと映画と向き合えるところにも惹かれました。

僕が学部から研究している監督は、1950～80年代に作品を発表したフランス人監督のロベール・ブレッソンです。彼はプロの役者を使わずに素人を起用し、芝居がかった演技を徹底的に排除した撮影方法で知られています。かと言って作品はドキュメンタリーではなく、あくまでもフィクション、物語を撮っている。それは一体なぜなのか。ブレッソン独自の演技論や身体論が一体どこから来ているのかを読み解こうとしています。

多彩なアプローチを学び説得力と独自性ある論文を

映像・現代文化論研究室には映像表象論を研究されている応先生の他にも映画史や詩歌・サブカルチャーを扱う先生がおられて、映画という題材一つとっても多彩なアプローチの視座を学ぶことができます。研究室の諸先生に「あなたの説は説得力や独自性がある」と認めてもらえる論文が書けるようになれば、その先の学術雑誌への投稿もハードルが下がるというもの。個性豊かな先生たちに日々鍛えられています。

博士課程進学に関する経済面の心配は、生活費と研究費の両方を支援してくれる北海道大学DX博士人材フェローシップに採用されたことで解消できました。こうした支援制度に加えて学部内にグループ学習室やロッカー付きの博士大学院生専用の自習スペースがある北大は、札幌駅から徒歩圏という立地も魅力。理想的な研究環境が整っていると実感しています。

PROFILE

1998年千葉県生まれ。北海道大学文学部卒業後、大学院に進学。専門はロベール・ブレッソン監督作品研究。カルチャー批評誌「NOBODY」(<https://www.nobodymag.com/>)にバク・チャヌク監督「別れる決心」や小田香監督が札幌で撮影した「Underground」に関する批評も寄稿。2024年4月から日本学術振興会特別研究員DC2に採用。



＼ ここをチェック！ /

入試対策

想定質問を考え、独自性をPR

修士入試の時は映像・現代文化論研究室の先生がたの各専門分野を意識しながら「映画史の先生からは映画史におけるブレッソンの位置づけを聞かれるかもしれない」というように、あらかじめ質問を想定して口述試験に臨みました。博士入試ではより厳密な研究計画を立てると同時に研究の独自性をアピールしました。

研究室には古今東西のアート系映像のDVDが並んでいる。



目標は博士3年目のフランス留学。
それまでに日本でできることは一通りやっておきたいです。

Weekly Schedule 〈博士後期課程1年前期の場合〉

「全然だらけちゃう日もあるんですけど」と断りつつ、毎朝8時起床から始まる規則正しい生活を心がけている三浦さん。まるで呼吸をするかのように「夜は映画の時間」と決めている。

MON	10:30～18:00 文献精読や学部授業のTA、読書会。水曜はアルバイト。 18:00～22:00 発表準備・論文執筆	
TUE	22:00～24:00 映画鑑賞	
WED	映画はサブスクでも見えますが名画のソフト、とりわけ監督別のBOXセットともなると高価なものばかり。DX博士人材フェローシップの支援を使って購入しています。	金曜は英米文学や言語学、芸術学の院生たちとの読書会。英米文学のテキスト1本とそれに合った映画1本を見てきて皆でディスカッションします。
THU		
FRI		
SAT	10:00～14:00 アパレルバックヤードのアルバイト 14:00～18:00 趣味・娯楽	修士までバンドで、今はソロでたまにライブハウスで演奏しています。
SUN	18:00～22:00 語学勉強 22:00～24:00 映画鑑賞	英語とフランス語を勉強中。たまに飲み会が入ることも。

Annual Research Plan 年間計画 〈博士後期課程1年の場合〉

4月	博士後期課程入学、北海道大学DX博士人材フェローシップに採用。	日本学術振興会の特別研究員に応募するために受講した文学院の支援制度「申請書の書き方セミナー」が役に立ちました。
6月	日本映像学会（京都大学）にて発表。コロナ禍以降初の対面発表だった。	
7月	表象文化論学会大会（東京都立大学）に参加。	
8月	所属研究室が発行する雑誌『層：映像と表現』に論文「『偶然と想像』、あるいは、映画の「不確かさ」についてのスケッチ」を投稿。	
9月	日本映像学会発行『映像学』（全国学会誌）に論文「『不可視の語り手』と作家——ロベール・ブレッソン『田舎司祭の日記』（1951）における語りと演技」を投稿。	
11月	表象文化論学会研究発表会（関西大学）にて発表。	
2023年3月	前年の8月と9月に投稿した論文がアクセプトされ、論文誌に掲載。『映像学』に新たな論文を投稿。	

博士後期課程2年では、映画監督の小田香監督と哲学者・経営者の東浩紀氏にインタビューを行い、その成果を学術誌『層：映像と表現』と中国の批評誌『中国图书评论』で発表したほか、学会誌『映像学』にもブレッソン作品に関する投稿論文が掲載された。さらに、国際ドストエフスキー協会シンポジウム、京都大学映画メディア合同研究室第3回シンポジウムにて口頭発表を行った。博士後期課程3年の現在は、ナンテール大学への留学に向けて準備中。

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

Division of
Human Sciences

人間科学専攻

人間と社会に関する
総合的な学びに
科学的にアプローチ。実験、実習、フィールドワーク等、
多彩な研究手法でアプローチ

■ 主な講義題目

心理学研究室	■心理学研究のフロンティア ■音楽心理学研究 ■感覚・知覚研究 ■認知神経科学の問題と方法 ■環境認知の心理学 ■身体運動の心理学
行動科学研究室	■現代社会心理学の動向 ■環境社会心理学 ■比較認知科学の最前線 ■行動科学における実験調査分析 ■一般線形モデルの諸問題 ■集団力学の理論
社会学研究室	■社会学論文の構成と執筆法の解説 ■計量的分析の基礎と応用 ■社会学の理論と実証 ■東アジアにおける社会構造 ■質的データ分析法の応用と実践
地域科学研究室	■地理学と地理空間情報 ■農村振興論 ■地誌学研究 ■地域調査論 ■環境社会学研究 ■自然資源学演習

■ 修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○修士 知覚時間の手がかりは何か 一種類の異なる点滅刺激を用いた検討ー 想起された色名とそのフォーカルカラーの総合的検討によって明らかになった心内の色彩表現とその構造 ●博士 時間情報処理における刺激規則性と知覚および運動タイミングの関係とその脳内基盤の検討
行動科学研究室	○修士 What Makes You Approach Strangers? The Role of Relational Mobility, General Trust and Self-Esteem 除去土壌の福島県外最終処分に向けた合意形成ゲームの開発と試行：公衆－ステークホルダー参加－関与による多段階のプロセスの検討 ●博士 累積的文化進化のメカニズム：階層性、語順規則、技術に注目して
社会学研究室	○修士 社区における中国的市民社会の在り方－官民関係の視点から－ 中国のトランスジェンダーの家族関係における葛藤 ●博士 中国社会における宗教の役割と政教関係－政権移行期にみるキリスト教非公認教会の生存戦略と社会参加－
地域科学研究室	○修士 漁村活性化における女性たちの役割と可能性－北海道神恵内村を事例に ハシトガラスの繁殖期における威嚇・攻撃行動の要因に関する研究 ●博士 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の津波災害リスクと港湾都市の開発に関する地理学的研究

他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>

心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？
当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行っています。具体的には、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達など、長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズムについての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ・マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先導的研究を進めています。協力行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもちどう変化しているかを個人との関係から記述し因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想すること、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析できること、を目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としながら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するとともに、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代の地域社会が抱える多様な問題について、人間社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人文地理学・社会生態学の3分野を中心とした学際的なアプローチによって地域の実践的課題に取り組んでいます。各分野の基礎的理論からフィールドワークの技法、分析の方法、実社会への応用までを、野外実習を交えながらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座

心理学研究室

心理学研究室では、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

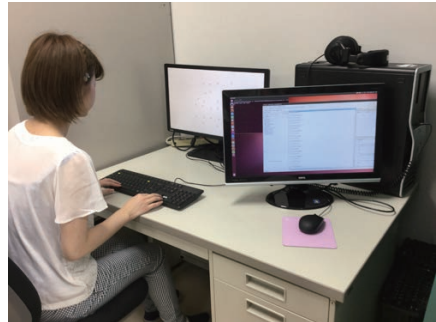
Lab.letters 教員からのメッセージ

河原 純一郎 教授

KAWAHARA Jun-ichiro

研究内容

人間の行動を支える意識・無意識プロセスに関わる注意と記憶。認知機能に影響する要因である、魅力や疲労・ストレスに焦点を当てた研究をしています。広告の研究も始めました。



▲実験目的に応じてコンピュータや専用の装置を使ったり、現場で行動観察をすることもある。

注意と魅力の心理学 人間の行動を測定し、背後のメカニズムを推定する

あなたの注意はどこに向きますか。突然鳴った着信音？好きな人の顔？それとも、いますべきこと（勉強・仕事）に集中できますか。もし前者なら、あなたの意思（注意制御）は弱っているのかもしれない。もし後者なら、好きな人の顔を抑制できていることになります。そのとき、その顔の魅力は下がっているのでしょうか。このように日常にありふれている疑問でさえ、実際に測ってみなければわかりません。私の研究室では、注意、顔、魅力といった認知心理学のキーワードを中心として、人の行動を計測を通して認識の仕組みを理解し、応用するための実験を行っています。

研究は、認知心理学の基礎研究と、広告、食品、衛生材などの企業との共同・受託研究の二本立てでやっています。日常生活の中から研究テーマを見つけやすい点も、この研究分野の面白さのひとつです。

業界を生き抜く自営感覚を鍛え 将来につながる院生時代を応援

学生の皆さん、特に将来、教育・研究職を目指す人には、一教育者・研究者としての「自営感覚」が身に付くような指導をしていきたいと考えています。例えば、研究に労力をかける必要があるのは当然ですが、ただ時間をかければよいというものでもありません。学生さんとの綿密な打ち合わせを通して“次の一手”を考えながら、実りの多い大学院生活となるよう、皆さんをガイドできればと思います。

基本は何事にも積極的に、「やれそう」と思う可能性が少しでもあれば臆せず挑戦していきましょう。教育・研究業界で職を得るにはそれなりの方法があります。それを知りたい？そんな人は適性があるかもしれません。お問い合わせをお待ちしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

河原 純一郎 教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■研究分野
認知行動科学(注意、記憶、魅力、顔、産業応用)

川端 康弘 教授 KAWABATA Yasuhiro

■研究分野
認知心理学(色覚、感性、知識、熟達)

安達 真由美 特任教授 ADACHI Mayumi

■研究分野
音楽心理学(聴取、演奏、感情、発達)

小川 健二 准教授 OGAWA Kenji

■研究分野
認知神経科学(特に運動学習や社会認知)

金子 沙永 准教授 KANEKO Sae

■研究分野
知覚心理学(とくに視覚、錯視)

田辺 弘子 准教授 TANABE Hiroko

■研究分野
認知行動科学(運動制御、身体表現、スポーツ心理)

鶴見 周摩 助教 TSURUMI Shuma

■研究分野
認知・発達心理学(乳児の知覚・認知)

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■研究分野
認知心理学(クロスモダルな情報処理過程、記憶、心的イメージ)

行動科学講座

行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、指導教員以外にも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

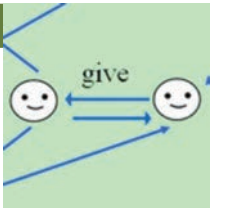
Lab.letters 教員からのメッセージ

高橋 伸幸 教授

TAKAHASHI Nobuyuki

研究内容

社会的交換、秩序問題、社会的公正に関する理論的・実証的研究。



お金、サービス、愛情の交換 個人と社会の相互関係を探る

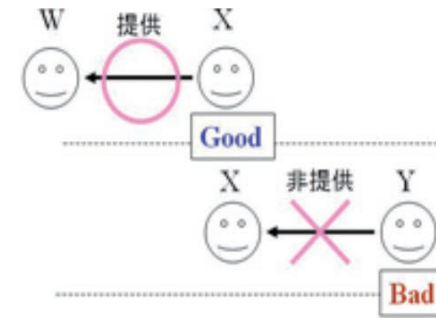
「社会的交換」とは、人間社会が資源とみなすもの—お金やサービス、情報に限らず、愛情、尊敬といった互いに価値を見出すものを交換しあうことを指しています。

小さな集団から大きな集団、親類縁者や見知った人々の輪から知らない他人同士の社会へ。現代の私たちは人類史上、類を見ない社会を生きています。情報化社会では対面しない人間関係も生まれ、対処する心のしきみを持っていない現代の人間はどうしたらいいのか、わからないことだらけです。社会は個人の意図や行動の集積である一方で、集積したことで一人一人が思いもよらなかった意図せざる結果も生まれます。「社会的交換」などの方法論を用いながらその謎を解明していきます。

回を重ねた指導がモットー 考える力を養い社会を見る

現在指導している院生は、内集団ひいき問題に取り組んでいます。人間は自分が属している集団という枠組みを越えて交換しうるのが。学生には相談があればいつでも訪ねてほしいと伝えていますので、回を重ねた対面指導でバックアップしています。

社会心理学に必要な姿勢は、好奇心と想像力を持つこと。自分のこの行動は常識が否か、日常的に考える力が社会を見る目にもつながります。海外からのポストドクターを交えた日常的に英会話が聞こえてくる環境とともに学んでいきましょう。



▲授業用スライドから抜粋した交換成立モデルの一例。

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

高橋 伸幸 教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■研究分野
社会心理学、実験社会科学

竹澤 正哲 教授 TAKEZAWA Masanori

■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■研究分野
社会心理学、文化心理学、社会生態心理学

高橋 泰城 准教授 TAKAHASHI Taiiki

■研究分野
行動科学、神経経済学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■研究分野
比較認知科学

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■研究分野
応用統計学

社会学講座

社会学研究室

社会学研究室では、現代宗教・アジア地域社会・ウェルビーイングなどに関する研究、社会的排除・福祉や医療・質的調査法に関する研究、社会階層・学歴・家族・地域・労働市場などの社会的な不平等および社会意識に関する研究、社会運動・ナショナリズムに関する研究を行っています。

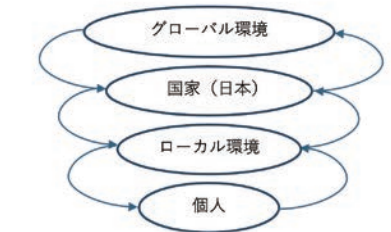
Lab.letters 教員からのメッセージ

平松 誠 講師

HIRAMATSU Makoto

研究内容

1. 出身地域による教育機会の不平等に関する研究
2. 居住地域による社会意識形成メカニズムに関する研究
3. 量的データ・地図データを活用した都市社会学的研究



▲ネット社会の今、「都市」の概念や個人と都市の距離も変化してきた。個人が地域を選び、作り変える新たな「地域」像も浮かび上がっている。

従来の都市像から距離を取り
地域の特性をとらえ直す

社会学の中でも「都市・地域社会学」は、社会学と地理学の間に位置するような学問だと考えています。「都市」や「地域」という視点を持つことで東京や大阪に象徴される大都市中心の考えから距離を取ることができ、平均的な都市像からのズレを対象地域の特性をとらえ直すことができる。そこに面白みがあると感じています。そう考えると、札幌のような200万人都市から人口数百人の村までを内包する北海道は、都市・地域社会学の理想のフィールド。「雪」や「クマ」等の表層的なイメージの奥にどういった時間や空間が存在するのかを、データを通して明らかにしてみませんか。リアルな調査から地域の正体が「大都市」の金太郎飴ではないことが見えてきます。

コンタクトゾーンで
打ち込んだ分だけ成果を得る

全国から人が集まる北海道大学は、社会学で言う「異質な他者が出会う場＝コンタクトゾーン」です。私自身、出身地域の北陸から関西に進学したときはカルチャーショックを幾度も実感し、この時の体験が現在の研究に繋がっています。同様に、多様性の地・北海道にも道内出身者と道外組が共に成長できる刺激的な環境が広がっています。大学院でさらに飛躍する前に過ごす学部4年間は、皆さんの強靱なバネを作る大切な期間です。社会学、語学、データ分析などの好きなことに真面目に打ち込めば、打ち込んだ分だけ必ず身につきます。真面目に学ぶことを恥ずかしがらず、北海道大学の多彩なリソースを活用して多様性理解につながる知性を一生懸命鍛えていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

櫻井 義秀 教授 SAKURAI Yoshihide

■研究分野
宗教・文化社会学、タイ地域研究、東アジア宗教研究、ウェルビーイング研究

樋口 麻里 教授 HIGUCHI Mari

■研究分野
社会的排除論、福祉・医療社会学、ジェンダー論、家族社会学、国際比較

平澤 和司 教授 HIRASAWA Kazushi

■研究分野
社会学（特に教育、家族、社会階層）

伍 嘉誠 准教授 NG Ka Shing

■研究分野
ナショナリズム研究、社会運動論、宗教・文化社会学、東アジア研究

平松 誠 講師 HIRAMATSU Makoto

■研究分野
都市社会学、地域社会学、計量社会学

清水 香基 助教 SHIMIZU Koki

■研究分野
宗教社会学、主観的ウェルビーイング研究、価値意識の研究

地域科学講座

地域科学研究室

地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

Lab.letters 教員からのメッセージ

林 琢也 准教授

HAYASHI Takuya

研究内容

- ①農村の観光や地域づくり、農業振興の場における様々なアクターの働きかけ、連携・協力体制、リーダーシップや起業家精神を発揮できる環境や要件、②移住者の実践が地域社会や住民に与える影響、移住・定住支援の現場における仲介者の役割、③世界遺産登録や観光地化の功罪、④都市における「農」の役割、⑤農業分野における知的財産権の活用、ブランディング戦略



▲フィールドワークとしては、毎年、ゼミの学生とともに、岐阜県郡上市和良町において、地域づくりや移住、観光振興、農村コミュニティについて聞き取りをおこなう調査実習を実施しています。また、当該地域の祭り（和良鮎まつり）では、ゼミで開発した商品（アイテム）の販売やクイズイベントを開催しています。



▲郡上市和良町では、毎年、林ゼミの出席・卒論発表会を開催しています。地域づくり活動に関心の高い人たちの前で、学生が自分の研究成果を報告し、ともに議論することは、貴重な学びの場となっており、参加者にとっても他地域の事例や取り組みの有効性や問題点を知り、次の活動や企画を考える一助になればと思い、2016年度より続けています。

地域づくりの理論・実証・実践研究

私は農村地域の住民が中心となりながらも、移住者や地域外の有志とともに地域づくりを進めていくための方法や連携のあり方に関心をもっています。地域の変化に及ぼす人間の影響は大きく、私は現地での聞き取りやアンケート調査、参与観察、協働活動をもとに分析・考察しています。

また、フィールドでの調査・研究のみならず、学生教育や地域連携活動を有機的に結び付けることで、私自身や学生の研究の視点や考え方も深まっているように思います。現場をリアルに感じることで、地域の事象やそこに暮らす人たちの意識や行動の理解が増し、調査フィールドでの協働活動（実践）が、理論や実証研究を深化させるという好循環が生まれつつあるように感じています。

文理融合の思考を鍛える
総合科学としてのフィールドワーク

学生指導では、卒業後の人生においても糧となるような学びを習得できるように心がけています。フィールドワークは協力してくださる方々がいて初めて成立するものです。調査での立ち居振る舞いや感謝の気持ちなど大切なことをおさなりにせず、1人の人間として成長して欲しいと願っています。

その地域で起きている現象を丹念に調査・分析し、理解するには文系理系を問わず様々な分野の研究成果や理論などにも目を配ることが必要であり、そうした知見も含めた上で総合的に地域を捉えることが不可欠です。それは地理学が総合科学といわれるゆえんでもあります。学生時代にフィールドワークを経験することで文理融合の思考を身に付け、願うことならば、お世話になった地域への還元や応援の気持ちを長く持ち続けてくれたら嬉しいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

笹岡 正俊 教授 SASAOKA Masatoshi

■研究分野
環境社会学、ポリティカル・エコロジー論、インドネシア地域研究

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi

■研究分野
都市地理学、地理情報科学 (GIS)

宮内 泰介 教授 MIYAUCHI Taisuke

■研究分野
環境社会学、地域社会学、開発社会学

上野 真由美 准教授 UENO Mayumi

■研究分野
野生動物管理学、個体群生態学、政策科学、動物学、捕獲学

高橋 昂輝 准教授 TAKAHASHI Koki

■研究分野
社会・文化地理学、都市研究、北米地域研究、島嶼研究

林 琢也 准教授 HAYASHI Takuya

■研究分野
農村地理学、経済地理学、観光学、地域づくり論



クマ対策を入り口に 人と、地域と手をつなぎたい

人間科学専攻 地域科学研究室 修士課程2023年度修了

伊藤 彩乃 *ITO Ayano*

「大学院在学中に経験できることは全てやりきりたい!」と笑顔で語る伊藤さん。専門の地域科学を柱に、実社会での活躍に必要な知識やスキルを学び、課題解決力を磨いています。

宮内先生がいる北大で 獣害対策を「自分事」に

大好きな動物の生態系や人との関わりを知りたくて帯広畜産大学に入り、ヒグマと人の関係について研究していました。すごく楽しかったんですが、「自分はコレを学んだ!」という実感が持てないまま卒業するのはもったいない。次は研究をしっかりやりたいと思い、環境保全に関するご著書を読んで感激した宮内泰介先生がいる北大の文学院に入学しました。

クマを含む獣害対策は行政が動くだけでなく、市民との協力が必要不可欠です。近年は少子化やコミュニティの希薄化といった地域の課題を絡めた獣害対策も進んでおり、私もフィールドである浦幌町で現地の課題を聞き取っています。私自身、北海道に来て初めてクマのことを考えるようになりました。町の方々にとってもクマ対策を改めて「自分事」として考えるきっかけを提供できたらと思っています。

教養深化プログラムや CoSTEP、集中講義も受講

北大に入って実感したことは、「チャレンジする機会がとて多い!」ということです。専門の地域科学の他にも、現代の大学院生が求められている実社会で活躍できる総合力をつけるための教養深化プログラムや科学技術コミュニケーションのCoSTEPなど、どれもまさに自分が知りたいこと、身につけたいことばかり。自分がやりたいと思ったことにすぐに踏み出せる北大でもっともっと成長したい。いろんなことを経験しておきたいと思い、ちょっと欲張りすぎかなと思うくらい授業を詰め込んでしまいました。

講義やフィールドワークを通して、今その地域で何が起きているかを「伝える」ことの重要性を学び、就職もできれば広報やメディア、あるいは行政職に関する分野に進めたらと考えています。北大に来たからこそ出会えた人や経験は私の宝物。これからもずっと大切にしていきたいです。

PROFILE

1999年愛知県生まれ。帯広畜産大学畜産学部卒業後、北海道大学大学院文学院修士課程に進学。浦幌町をフィールドにヒグマと人の関係について研究するかたわら、教養深化プログラムも受講。科学技術コミュニケーション教育研究部門CoSTEP本科修了生。修了後、愛媛県久万高原町にて地域おこし協力隊として活動中。
X: 彩乃 | 久万高原町地域おこし協力隊 Instagram: くまぐらしの記録



＼ ここをチェック! /

入試対策

地域科学の基礎知識と過去問の勉強会

学部で生態学は学んでいましたが、文学院で新たに学ぼうとしていた地域科学については全くのゼロスタート。宮内先生に聞いていた参考図書を読み込んで基礎的なことを頭に入れておきました。環境問題に関心がある友人たちが過去問題を一緒に解く勉強会を開いて応援してくれたのも、すごく心強かったです。

北大入学のきっかけになった宮内先生の著書。



興味がある授業は迷わず受講。
専門分野が異なる学生と話せるのも楽しいです。

Weekly Schedule 〈修士課程1年:1学期の場合〉

「少しでも『面白そう!』と思った授業は学部でも他の大学院でも受講しています」という言葉通り、毎日、学部生並みに埋まっている充実のスケジュール。

MON	大学院授業「実践環境科学チーム活動実習」	この他にオンデマンド必修科目を3つ、教養深化プログラムの「キャリアマネジメントセミナー」や特別演習「伝える媒の技術」、環境科学院の集中講義「実践環境科学実習I」、Hokkaido Summer Instituteの外来種管理に関する集中講義を受講しました。
TUE	大学院授業「地域科学特殊講義」「地域環境学特別演習」「社会生態学特別演習」	
WED	大学院授業「開発社会学特別演習」、CoSTEP	
THU	大学院授業「地理学特別演習」「地域調査特別演習」、学部授業「地域科学演習」TA	
FRI	大学院授業「経済地理学特別演習」	
SAT	CoSTEP	

Annual Research Plan 年間計画 〈修士課程1年の場合〉

2022年5月	環境科学院の先輩のヒグマ生態調査、文学院の先輩の参与観察調査(田植え@美瑛市)、宮内先生・環境省のゼニガタアザラシ被害聞き取り調査に同行。CoSTEP受講スタート。	
6月	環境科学院の集中講義ワークショップに参加。橋本雄一先生のゼミでニセコ町にエクスカージョン(野外調査)。	
7月	文学部のゼミで中頓別町の聞き取り調査実習。	
8月	札幌市石山地区で熊対策草刈りのお手伝い。Hokkaido Summer Instituteの外来種管理に関する集中講義を受講。浦幌町で約20日間のフィールド調査。	聞き取りさせていただく農家さんのお手伝いもします。
9月	浦幌町フィールド調査。教養深化プログラム集中講義「伝える媒の技術」。	小学校での出張授業もやらせてもらいました。
10月	富山県で一般の方向けクマイベントのお手伝い。野生動物と社会学会に参加。	
11月	旭川のヒグマフォーラムに参加。環境系エンターテイナーWOWキツネザルさんのヒグマドキュメンタリー動画撮影に同行。	
12月	書香の森ギャラリートーク“「深」動物撮影 関係論 ―写真家 高橋忠照と出会った動物たち―”開催スタッフ。	悲しい事故を防ぐためにも適切なクマ対策が必要です。
2023年2月	浦幌町フィールド調査。	
3月	札幌のヒグマフォーラムで研究発表、HBC企画ヒグマイベントのお手伝い。NHK帯広主催ヒグマイベント運営お手伝い・研究発表。CoSTEP修了式。	

「クマに関することなら何でも参加したい」伊藤さんの行動力で実現した年間スケジュール。「たくさんのお会いといろんな意見を吸収して、自分の中の正解を疑うことに気づけた。視野が広がりました」。

研究環境 一人ひとりの学びを応援！

在学生のための情報とアーカイブが充実 〈ウェブサイト〉 www.let.hokudai.ac.jp/



研究情報を中心に発信している公式 Facebook もご覧ください。
<https://www.facebook.com/Hokudai.Humanities.HumanSciences/>

公式 Instagram
https://www.instagram.com/hu_bungaku/

文学研究院・文学院・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。



▲文学研究院・文学院・文学部公式Xは、研究情報、学内行事など学生向け情報を中心に更新、緊急時の情報共有メディアとしても利用します。

文学部紹介動画「#北大#文学院#ほんもの」
<https://youtu.be/yGC6LR5d0m8>



人と情報の交差点エントランスホール



文学部・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を展示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。展示コーナーは、複数の研究室の大学院生が連携して研究成果を展示するアウトリーチの場として活用されています。

きめ細やかな留学支援



文学部・文学部では、教務担当が国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。



▲文学部・文学部生のための「留学ガイドブック2024」公式ウェブサイトにて公開中

国際担当教員

ラフェイ・ミシェル 教授 LA FAY Michelle
■研究分野
日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

国際担当教員

小川 佐和子 准教授 OGAWA Sawako
■研究分野
映画史、音楽劇研究

教養深化プログラム担当教員

平川 全機 特任助教 HIRAKAWA Zenki
■研究分野
環境社会学、災害と復興の社会学、リスクコミュニケーション

常に机が確保できる院生研究室



研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとりが一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学院内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。

若手研究者を応援！研究推進室



大学院生の旅費支援・校閲費支援の窓口、申請書の書き方セミナー等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント (RA) のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やポストドクのみなさんの研究活動をバックアップしています (p.07-p.08)。

関連組織

文学研究院内センター



応用倫理・応用哲学研究教育センター

本センターの目的は、応用倫理、応用哲学、ジェンダー・セクシュアリティ、死生学に関する研究・教育を推進することにあります。2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関わる研究教育も活動範囲に加え、さらに2018年度には「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、「応用哲学」と「死生学」も研究領域に加え、現在に至っています。

北方研究教育センター

北方研究教育センターは、文学研究院が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、考古、環境など広範な視点から「北方研究」を捉え、研究・教育を進めています。対象地域は、北海道やロシア・スラブ圏をはじめ、北欧、北米、北極にも及び、さまざまな大学や研究機関との共同研究や交流の拠点となっています。また、雑誌『北方人文研究』の発刊、シンポジウムや研究会などの企画・運営を行っています。



学内共同施設



社会科学実験研究センター

社会科学実験研究センター (CERSS) は、先端的な社会科学実験を展開する日本唯一の専門機関であり、国内外の主要研究拠点と連携するハブとしての役割を担っています。将来を嘱望された研究者の受け皿としても機能しています。心理学・認知科学・脳科学と、経済学、法学、政治学を含む社会科学諸分野との接合を図ると同時に、当該分野における若手人材の育成、研究成果の国内外への発信を行い、実験社会科学の発展に寄与しています。

人間知・脳・AI研究教育センター

人間知・脳・AI研究教育センターは、新しい「人間知」の創成という理念のもと、数千年来の知の伝統を受け継ぐ人文社会科学と、急速に進展しつつある脳科学 (神経科学)・人工知能 (AI) の知が高度なレベルで融合する文理融合型研究・教育を行うセンターです。脳科学 (神経科学) と AI 研究の急速な進展により、旧来人文社会科学が扱ってきた「人間」への問いが新たな仕方です。この挑戦に答え、文理の境界を超えた先端的研究のプラットフォームを作ることを目指します。国内外から最先端の研究者を招聘して行うサマースクール・ウィンタースクールを中心に、プログラムに所属する大学院生は刺激に満ちた共同研究に参画し、国内外の研究室・企業へのインターンシップを行うことができます。



学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、約150年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外には東京オフィスがあり、出張や就活時の拠点として活用されています。留学希望者への情報提供、留学実現に向けての具体的な手続きの支援は、国際連携機構のリクルーティングオフィスが行っています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用に恵迪寮^{けいてきりょう}、女子学部生と女子大学院生用には霜星寮^{そうせいりょう}があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、6か所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「ともに」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

困ったり悩んだりした時には

北海道大学の「学生相談総合センター」では修学、進学、就職などの進路相談に加え、家庭や友人関係などの個人的な問題も相談できます。ハラスメントに関することも相談員の先生が常時対応しています。文学院の建物内にも学生相談室があり、週2回相談を受け付けています。「保健センター」では、健康管理のための定期健康診断や健康診断書・健康診断証明書の作成、学生の健康相談および診療を行っています。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系52、体育会系68、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料減免の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度[※]や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント（TA）やティーチング・フェロー（TF）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度があり、給与（謝金）を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。博士後期課程学生向けに研究費と生活費相当額を支給するフェローシップ制度も拡充されています。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額(2024年度)

	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円 130,000円、150,000円のいずれか	

DATA

▶ 文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問]
入試から生活まで幅広いFAQ集

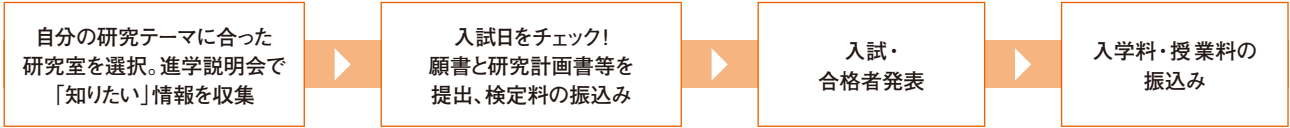
▶ 北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活]
さまざまな学生生活情報を網羅→<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/>

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。オンラインで行う大学院進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程、修士課程ともに年2回（9月、2月／修士課程の社会人特別入試は2月のみ）実施しています。出願に関する詳しい情報が記載された募集要項と過去の入試問題などは文学院のウェブサイトに掲載しています。
- 文学院は、一般学生とは別に外国人留学生（修士課程のみ）や社会人の入試枠も設けています。社会人入学に配慮した長期履修制度もあり、入学後のそれぞれの研究スタイルを選ぶことができます。



▲募集要項



2024年(令和6年)度実施の入試カレンダー

		2024年						2025年	
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
オンライン 進学説明会		21日 オンライン実施					15日 オンライン実施		
修士課程	一般・ 外国人 留学生		16日～30日 インターネット 出願登録期間 23日～30日 出願書類提出期間		21日 試験日	4日 合格発表		2日～13日 インターネット 出願登録期間	
	社会人		社会人特別入試の 前期試験はありません					2日～13日 インターネット 出願登録期間	6～9日 出願書類 提出期間
後博士課程	一般・ 社会人		3日～17日 インターネット 出願登録期間 10日～17日 出願書類提出期間		22日 試験日	4日 合格発表		12月24日～1月10日 インターネット出願登録期間 1月7日～10日 出願書類 提出期間	3日 試験日 18日 合格発表

大学院入試情報 北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→大学院文学院入試情報

社会に扉を開く

[社会人入学(社会人特別入試)]

“社会に開かれた大学院”を目指して修士課程および博士後期課程の入試に「社会人入学(社会人特別入試)」を実施しています。
詳細は、募集要項をご確認ください。

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。
詳細は、北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[文学院]→[長期履修制度]

DATA

- ▶ 検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円
(入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください)
授業料は前期、後期に分けて払います。また、減免制度、奨学金制度などがあります。
- ▶ 入学状況
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20230728_gaiyou.pdf#page=42
- ▶ 卒業・修了者数(学位授与数)
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/20230728_gaiyou.pdf#page=43

MEMO

- ▶ 研究生
特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶ 聴講生・科目等履修生
授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができますが、学位を取得することはありません。



文学院進学希望者向けのまとめ情報は、右のQRコードよりご覧いただけます <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal>

免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格、1級考古調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状 [国語、社会、英語]
- (2) 高等学校教諭一種免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]
- (3) 中学校教諭専修免許状 [国語、社会、英語]
- (4) 高等学校教諭専修免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]

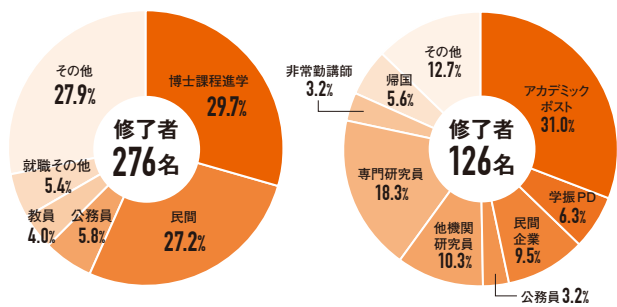
●学芸員 ●専門社会調査士 ●1級考古調査士

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
令和3年度	93人	28人	37人	28人
令和4年度	85人	22人	29人	34人
令和5年度	98人	32人	51人	15人
過去3年間平均	—	29.7%	42.4%	27.9%

※その他の内訳：帰国、大学院等受験準備、文学研究院研究生など。



修士課程 過去3年間の進路

博士後期課程 過去5年間の進路

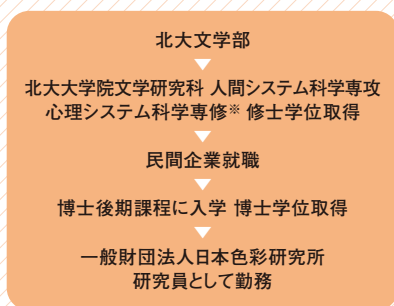
博士後期課程 修了者の声

色彩の専門家として鍛えられた実験・分析手法で
現代社会のニーズに即応

高校生のときに色彩検定という試験を知ったことから、学問としての色彩に興味を持ったのが研究のきっかけです。在学中は認知心理学領域で色彩について研究されている川端康弘教授の下で学び、実験を計画することや得られたデータの分析といった研究の面白さに惹かれて大学院進学を決めました。大学院では、物体の色に関する既存の知識が、実際に見た色の記憶の変容にどのような影響を及ぼしているかを研究しました。修士課程修了後に一度民間企業に就職しましたが、認知心理学の色彩分野の専門家になりたいという思いから博士後期課程に進学し、研究を続けま

した。自主性を尊重する環境で、自由な発想を取り入れて研究ができたことはとてもありがたかったですし、その経験が今の職場でも活かされていると思います。研究所では、企業や自治体などの委託を受け、心理調査・実験から色彩効果の検証や配色提案などを行っています。食品や生活用品、景観など、大学の研究では出会うことのなかった分野と色彩との関係についての知見が得られること、現代社会のニーズを速やかに調査できることが民間の研究所の強みです。また研究所独自の調査の他、北大との共同研究も進めています。

一般財団法人日本色彩研究所 研究員
佐々木 三公子 さん [2017年度修了]



※2019年4月の改組により、文学研究科は文学部に、人間システム科学専攻は人間科学専攻に、心理システム科学専修は心理学研究室になりました。

その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/dc-graduate>



●北海道大学キャリアセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

修士課程修了者の就職先 過去3年間

官公庁	学術研究、専門・技術サービス業	情報通信業	製造業
愛媛県久万高原町地域おこし協力隊 外務省 国税庁 仙台市 総務省 北海道教育委員会 北海道森林管理局 北海道庁 松本市役所 夕張市役所	愛媛県美術館 アクセンチュア あずさ監査法人 大川美術館 小樽市総合博物館 帯広百年記念会館 科学技術振興機構 釧路市立美術館 札幌市アイヌ文化交流センター 札幌市芸術文化財団札幌芸術の森 産業技術総合研究所 自営業(デザイナー) 水土舎 日本学術振興会 日本総合研究所 野村総合研究所 PwCコンサルティング PIGNUS ビジョン・コンサルティング 日高町立門別図書館郷土資料館 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 北海道大学大学院医学研究院 マクロミル	HBA ESRIジャパン NTTデータ NTTデータMSE M-SOLUTIONS クリプトン・フューチャー・メディア KDDI 尚文出版 Speee セーフィー ソフトウェア・サイエンス TIS テクノプロ・IT 東京システム技研 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス パクテラ・テクノロジー・ジャパン 東日本電信電話 ファームノート フジテレビジョン ブックスボックス 北海道新聞社 モンスタースラボ	岩塚製菓 大阪クリップ クボタ コルグ セイコーエプソン TDK TOPPAN 日産自動車 ルビンア レゾナック
教育・学習支援業	金融・保険	卸売業・小売業	農業・林業
芦原中学校 神奈川県教育委員会(高等学校教諭) 吉祥女子中学高等学校 進学会 星野学園 北海道高等学校 北海道大学大学文書館 中学校教諭 日本語教師(中国)	SBI証券 PayPay銀行 北海道銀行	コメリ トゥモローランド	雪印種苗
建設業	運輸業・郵便業	不動産	
清水建設 大東建託	ニチレイロジグループ 北海道エアポート 北海道丸和ロジティクス	JWB	

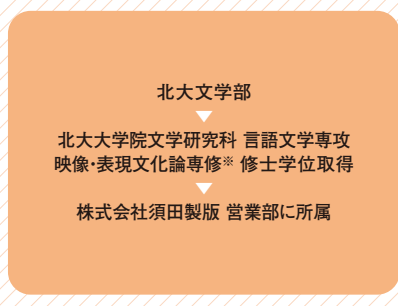
修士課程 修了者の声

さまざまなメディア研究を通じた研鑽が
メディアというものづくりの土台に

私が所属した映像・表現文化論講座(現在は映像・現代文化論研究室)は、映画や小説を始め、マンガ、アニメ、写真、音楽、詩など研究対象の裾野が広いことが特徴です。マンガが研究対象になるという発見に衝撃を受け、学部4年間の研究では物足りず、大学院に進みました。大学院では、マンガがどのようなシステムによって独立したメディアとして存在しているのか、特にマンガにおける時間の操作・編集に関する表現技法の性質や成立過程について研究しました。体系づけられた先行研究があまりなかったため、新たな研究領域を開拓しているようで非常に刺激的でした。

博士後期課程進学も考えましたが、既存メディアの研究だけではなく、メディアが生まれる瞬間に立ち会いたいという思いから、メディア系の制作に携われる業種に就職しました。現在は営業職として、紙媒体だけでなく様々なメディアを通じたものづくりの組み立て役として業務を担っています。大学院で様々なメディアと触れ合った経験は、業務の中でより良い選択肢を見つけるための指針となり、特にマンガ研究の、印刷会社における業務との親和性の高さには日々驚かされています。

株式会社須田製版 営業部
垣花 常武 さん [2018年度修了]



※2019年4月の改組により、文学研究科は文学部に、言語文学専攻は人文科学専攻に統合、映像・表現文化論専修は映像・現代文化論研究室になりました。

その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/mc-graduate>



Access



文学院周辺地図



国立大学法人
北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 文学事務部教務担当

電 話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

U R L <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University
Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

○制作・発行 北海道大学 大学院文学研究院

○編集担当 橋本雄・村松正隆・川崎公平・宮内泰介 (広報誌専門部会)

飯塚理恵・森岡和子 (研究推進室)

○企画・編集 株式会社スペースタイム

○デザイン 株式会社デクスチャー

○教員紹介記事構成 佐藤優子 (p20、p25、p33、p36除く)

■本誌に掲載されている情報は2024年6月現在のものです。

■本誌の無断複写 (コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

